

第35号議案

文京区指定文化財の指定について（諮問）

上記の議案を提出する。

令和6年8月6日

提 出 者 文京区教育委員会

教育長 丹羽 恵玲奈

文京区指定文化財の指定について（諮問）

文京区文化財保護条例（平成 4 年 3 月文京区条例第 28 号）第 4 条に基づく文京区指定文化財の指定について、同条例第 20 条第 1 項の規定により、下記のとおり諮問します。

なお、区教育委員会への答申については、令和 7 年 1 月までにお願い申し上げます。

記

1 諮問事項

未指定の有形文化財を文京区指定文化財に指定することについて

2 指定文化財の候補

(1) 名 称 心城院版木 付 御鬮筆筥

(2) 員 数 59 面・1 棹

(3) 区 分 有形文化財（書跡・典籍）

(4) 所有者 宗教法人 心城院

(5) 所在地 湯島三丁目 32 番 4 号 心城院

(6) 時 代 近世後期～近代

（墨書等により年代が判明するものに、文政 8 年（1825）6 月、同 9 月、文久元年（1861）、大正 6 年（1917）4 月、昭和 28 年（1953）12 月がある。）

(7) 概 要

【法量】

（版木）表 1 参照。

（御鬮筆筥）高 74.6 cm 幅 78.5 cm 奥行 29.3 cm

【材質・形状】

（版木）サクラ材製ほか。

（御鬮筆筥）ヒノキ材製か。漆塗。2 列 17 段、都合 34 本の抽斗をつける。各抽斗の前板前面中央に金具のつまみをつける（後補）。各抽斗の内側は、二つの仕切りによって中を三分し、そこに紙製御鬮を 3 番ずつ入れる。

【銘文】

（版木）表 1 および資料 1 参照。

（御鬮筆筥）各抽斗の前板前面に、中に収められる御鬮の番号が白墨で記され、先板後面には抽斗の配置（例えば右列一段目は「右一」など）が墨書で記される。また、左列最下段の抽斗の底板上部に次の銘がある。

「文政八乙酉載六月 講中造之

權大僧都豎者法印

義山 豪榮代

柳井堂什物

さらに底面には、次の修理銘が白墨で記される。

「大正五年十二月廿日

当山十七世賢妙代

塗替」

【保存状態】

版木は、茶箱 1 箱等に入れられ、本堂内陣裏の倉庫に収められている。御鬮筆筒は本堂外陣に置かれ、現在でも近年印刷された御鬮を入れるための御鬮筆筒として使用されている。

版木は、端食や下部等に虫損が認められるものがあるほか、白黴が生じているものがあり、今後の保管に留意する必要がある。

御籤筆筒は、一部に虫損が認められる。抽斗のつまみ金具後補。大正 5 年 (1916) 12 月塗替。

3 諮問の趣旨

本版木を蔵版する心城院は、湯島天満宮男坂下に所在する天台宗寺院である。元禄 7 年 (1694) 湯島天神別当喜見院三世宥海の開基と伝わる。当初、宝珠弁財天堂と称し、湯島天神に属す一堂宇であった（「寺社書上」国立国会図書館蔵）。のちに柳井堂とも称し、明治時代以降に心城院と称して現在に至る。本尊は大聖歓喜天（聖天）およびその本地仏である十一面観音、相殿として弁財天を祀る。

心城院版木は、内容面から①絵像類 4 種 4 面、②經典類 7 種 18 面、③札類 13 種 13 面、④御鬮 1 種 17 面、⑤その他 7 種 7 面に大別される。

① 絵像類に分別したのは、4 種 4 面である。

No.1「弁財天坐像」は、弁財天の御影である。正面上部に琵琶を弹奏する弁財天坐像を置き、その下に大黒天・毘沙門天を置く。

No.2「童子経曼荼羅図」は、「護諸童子陀羅尼経」（護諸童子経）に基づき構成された図像である。中心に主尊として梅檀乾闥婆王を置き、その周囲に十二鳥獣と合掌する三童子をめぐらす。梅檀乾闥婆王は、右手に三叉戟を執り、戟の切先には三童子と十二鳥獣の頭部を差す。左手は胸高に上げて火炎宝珠を捧げ持つ。瑟瑟座上に左脚を踏み下げて座す。護諸童子経は、神咒の力をもって小児の疾病を治す秘法を説き、発病の原因として十五鬼神をあげる。これらの鬼神は種々の動物の形であらわされた。同経を依拠經典とした修法が童子経法で、梅檀乾闥婆王を本尊として、小児の病気や災厄を除き、また安産を祈るものである。

No.3「観音坐像」は、中央やや下部に主尊の観音坐像を置き、上部に五言四句の偈を刻銘する。この偈は、「請観世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪経」の一節からとったものである。同経は、疫病退散、除病を祈願するものである。

No.4「日之出大黒天像」は、放射光を放つ日輪の中に、やや右下方を向き、左手に袋の口を持って背負った大黒天をあらわす。大黒天は、弁財天および大聖歓喜天（歓喜天）と関わりがある諸尊の一つである。

② 經典類には、No.5～7「妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五」、No.8～11「大樂金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品」、No.12～13「大聖歓喜天使咒法経」（ルビ無し）、No.14～15（表）「大聖歓喜天使咒法経」（総ルビ）、No.15（裏）「摩訶般若波羅蜜多心経」、No.16～20「聖天講式」、No.21～22「歓喜天和讃」の 7 種 18 面が

ある。

江戸時代の心城院は、弁財天を本尊とするとともに大聖歓喜天（聖天）およびその本地仏である十一面観音を相殿として祀っていた（前掲「寺社書上」）。現在では、大聖歓喜天を本尊に位置づけており、「湯島聖天」として知られている。同寺が、「大聖歓喜天使咒法経」・「聖天講式」・「歓喜天和讃」を蔵版するには、上記を背景とする。なお、「聖天講式」は、跋文によれば文久元年（1861）に薬師寺嘉兵衛・同駒次郎が上木施主となって心城院で開版されたことが知られる。

③ 札類には、No.23「浴油供御牘」、No.24「歓喜天長日華水供之御牘」、No.25「華水供御牘」、No.26「御祈祷浴油供御牘」、No.27「星供御守護」、No.28「御祈祷日供講御守護」、No.29～31「真言」、No.32「真言札」、No.33「立春大吉祥」、No.34「大般若経転読札」、No.35「奉転読大般若経六百軸福寿増長祈攸」がある。No.23～26は、歓喜天の修法に関する札である。「真言」のうち、No.29は十一面観音の真言、No.30～32は歓喜天の真言である。

④ No.36～52「御鬮」は、五言四句の漢詩とその解説文からなり、いわゆる「元三大師御鬮」とよばれるものである。第一大吉から第一百凶まで一組揃っている。No.52裏面には、「文政乙酉九月戌」の墨書があり、文政8年（1825）の開版が知られ、同年の銘がある御鬮筆筒との関連がうかがわれる。本御鬮の漢詩の読み方やその解説文は、いわゆる御鬮本の一つである『元三大師御鬮諸鈔』（文化6年（1809）成立）ときわめて近似しており、同書をもとにして作成されたと考えられる。

⑤ その他は7種7面である。

No.53「順気湯功能書/順気湯包紙」は、湯島天神男坂下に所在した香具師の松金屋文治郎から頒布された順気湯という薬の引札の版木である。松金屋文治郎は、京都姉小路の御用香具師鳩居堂の江戸出店であった。

No.54「受領証」は、金額と月日欄が空欄となる受領証の版木である。

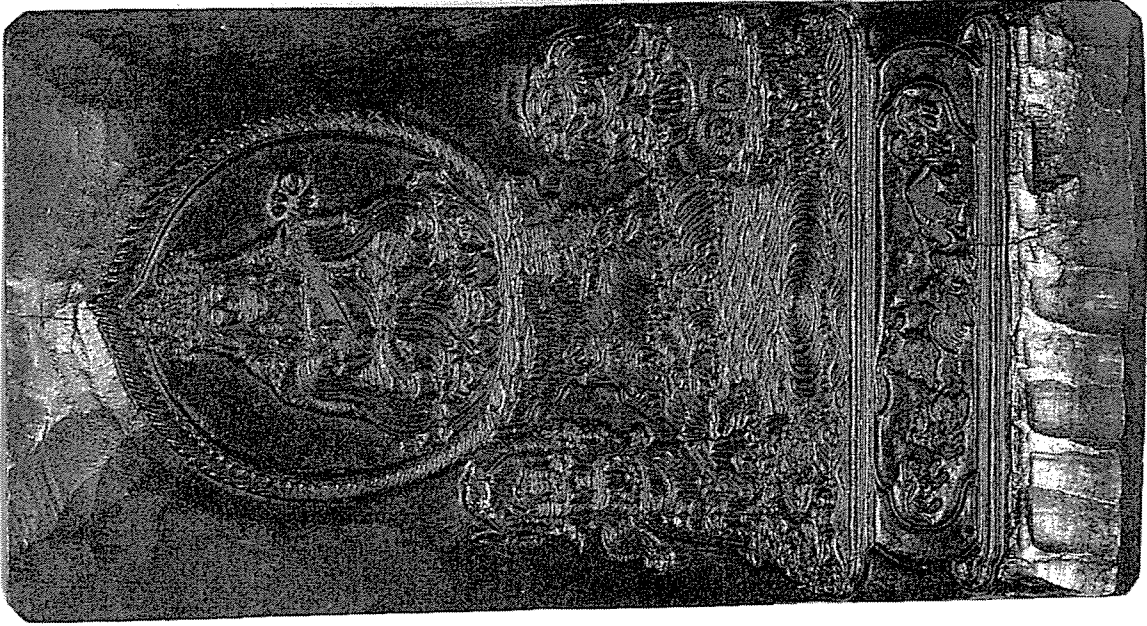
No.55「御祈祷巻数」は、歓喜天に関わる修法である浴油供・如法供一七日二十一座で念誦した真言等を証した目録である。願主名・年月日が空白とされており、摺写したものに手書きで願主名・年月日を書き入れたのであろう。

No.56「大浴油祈祷修行案内/題箋「光明供」字体二種」は、「信者講中諸侯」のために執行される大浴油祈祷修行の案内状である。No.57「御供米」は、信者や講中等から心城院の仏前に奉納される御供米に関するもの。No.58「年賀状」とともに、これら3面は近代の制作と考えられる。No.59「無常（和歌）」は、無常と題する和歌である。

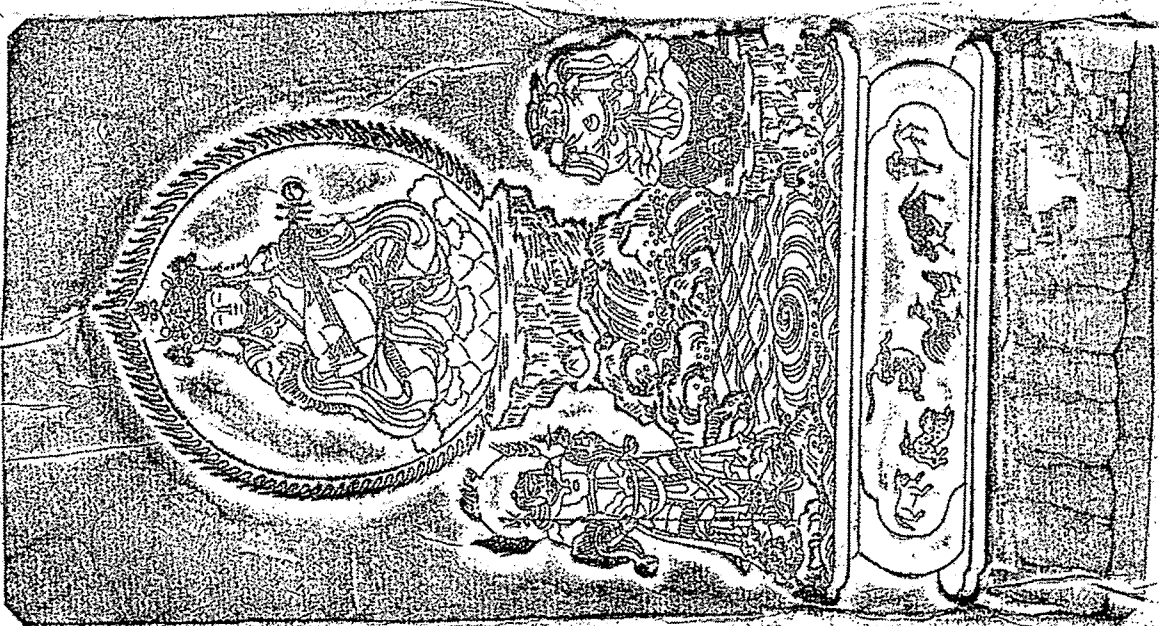
御鬮筆筒は、現在でも使用されている。各抽斗の内側は仕切りによって三つに区切られ、版木によって摺られた紙製の御鬮を抽斗1本につき3番ずつ入れた。「一百」の御鬮を入れる左列最下段の抽斗底板上面の銘文によれば、文政8年（1825）6月義山豪栄（天保14年〈1843〉寂）の代に制作されたものであることがわかる。義山豪栄は、心城院第十世で中興とされる僧で、古希の寿像である「木造義山豪栄坐像」（区指定文化財）が残されている。上述した御鬮の版木の墨書銘を踏まえると、義山豪栄の代に同寺で御籤の頒布をするため、文政8年（1825）6月から9月にかけて、必要な諸道具を揃えていったことがうかがわれる。なお、左列最上段の第六番の紙製御鬮を入れた抽斗の底板上面には、御鬮の紙片が貼り付いて残る。この紙片は、書体からみてNo.36裏面によって摺られた第六番の御鬮の残片であると判断される。

心城院版木は、同寺が弁財天信仰、歓喜天信仰の寺院であることを背景として、それに関連するものが多く、同寺での宗教活動と、それを受容した庶民の信仰をうかがうことができる。また、御鬮は墨書銘によって文政8年（1825）の開版が判明し、同年に制作された御鬮筆筒とともに、同寺における御鬮の頒布といった動向をうかがうことができる。これらは、心城院の歴史を考える上で重要な史料であるとともに、近世から近代にか

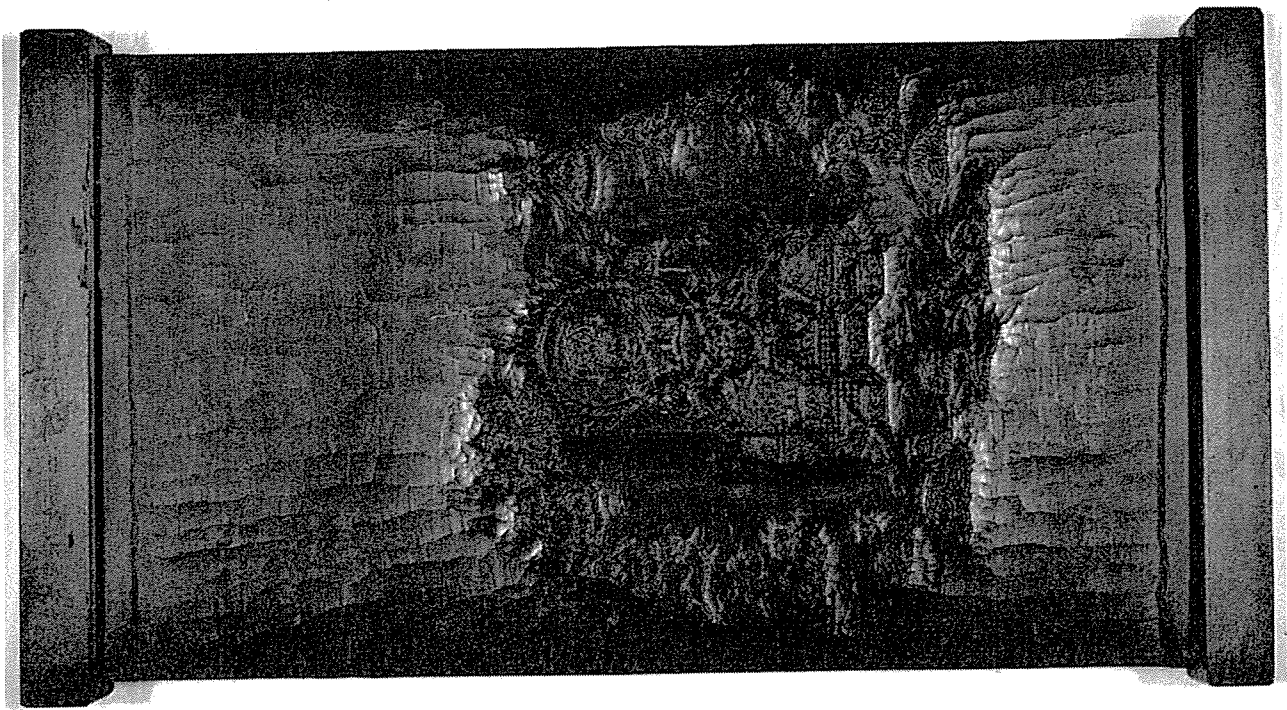
けての庶民の信仰および印刷文化を知る上でも貴重な資料である。



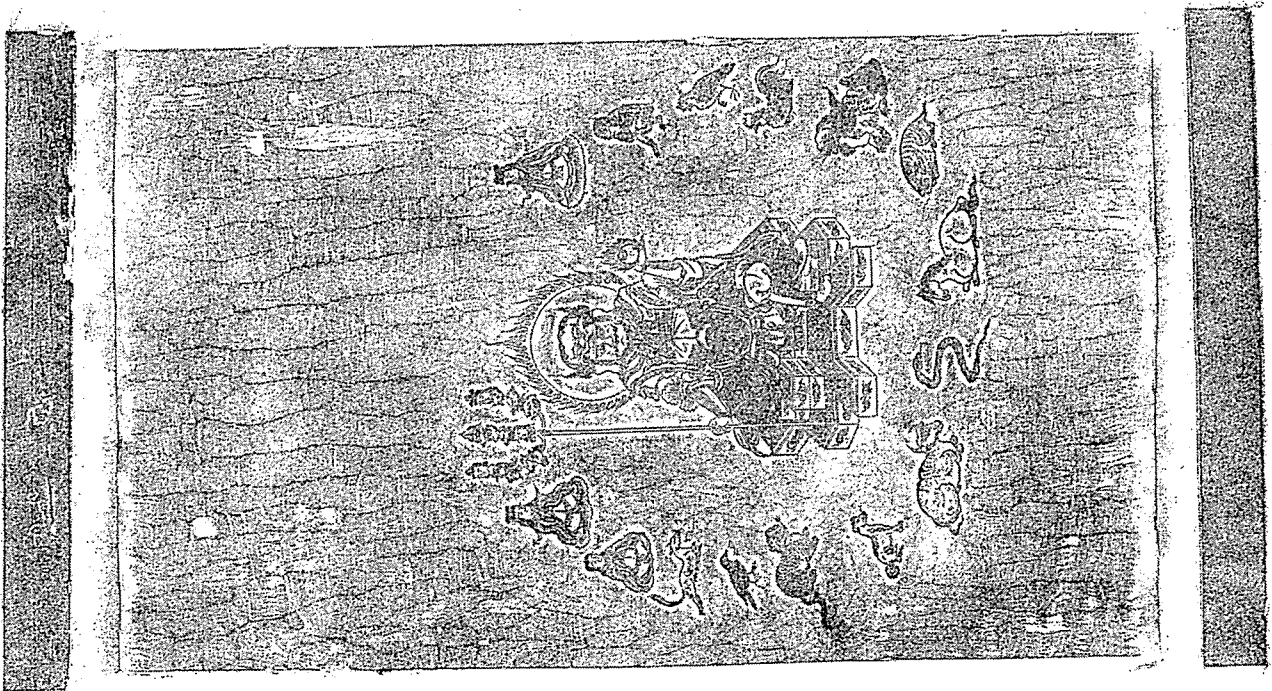
No. 1

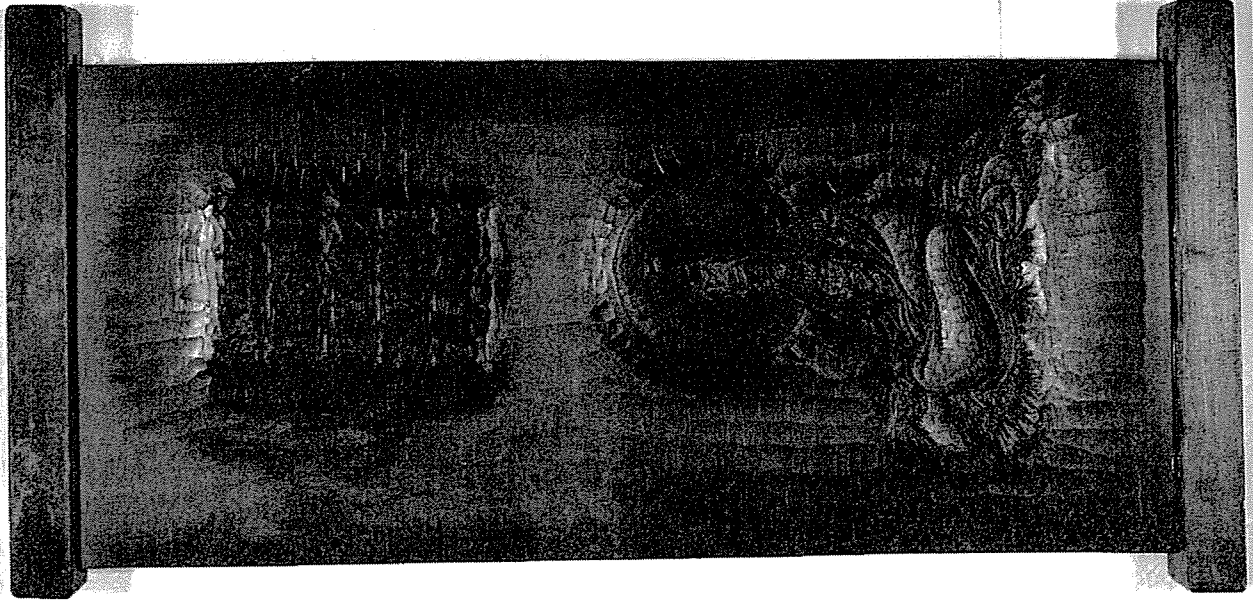


図版は鏡像反転した。(以下同)

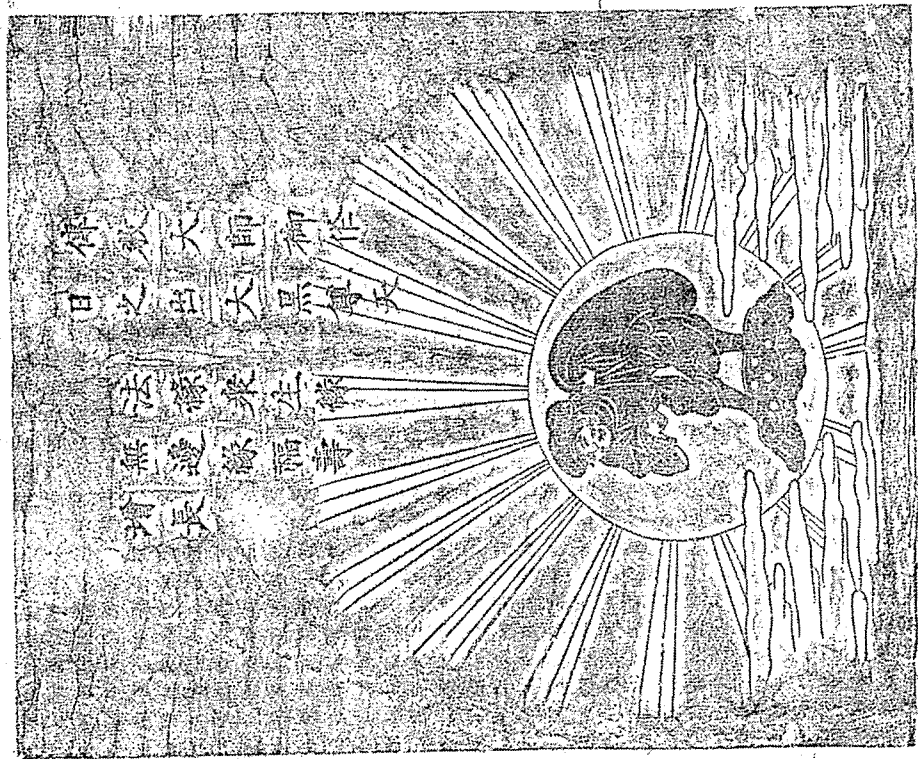
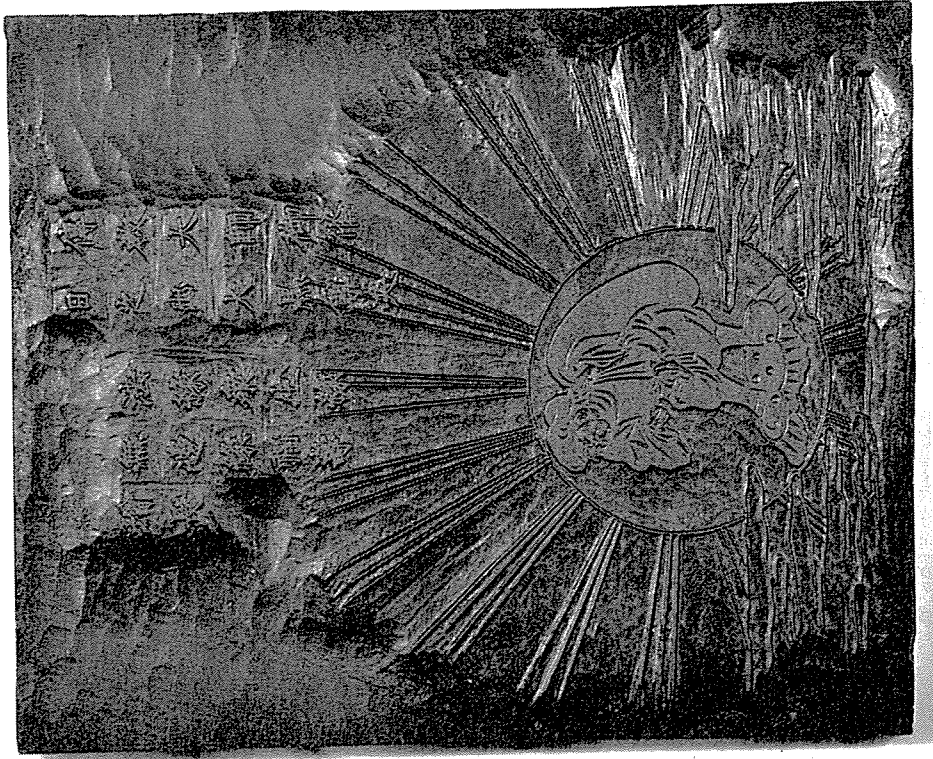


No. 2

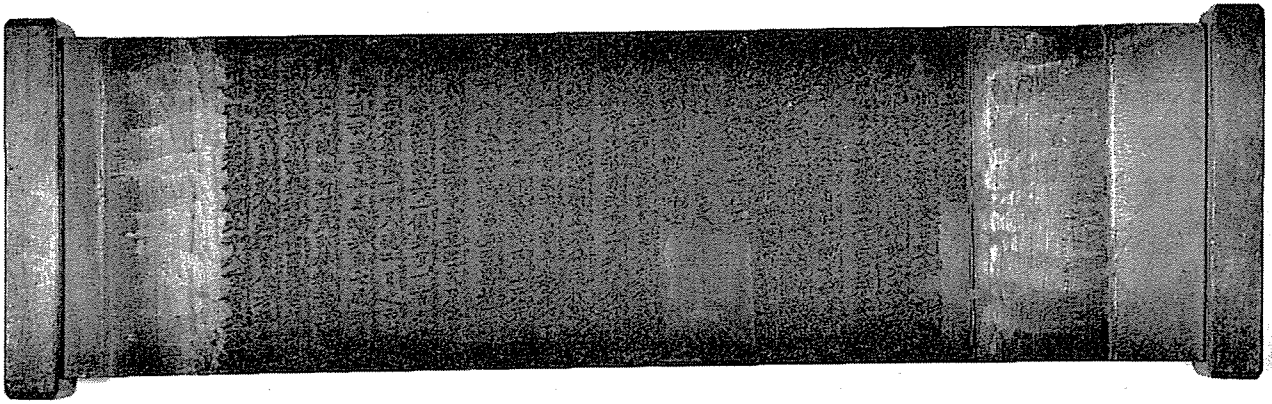




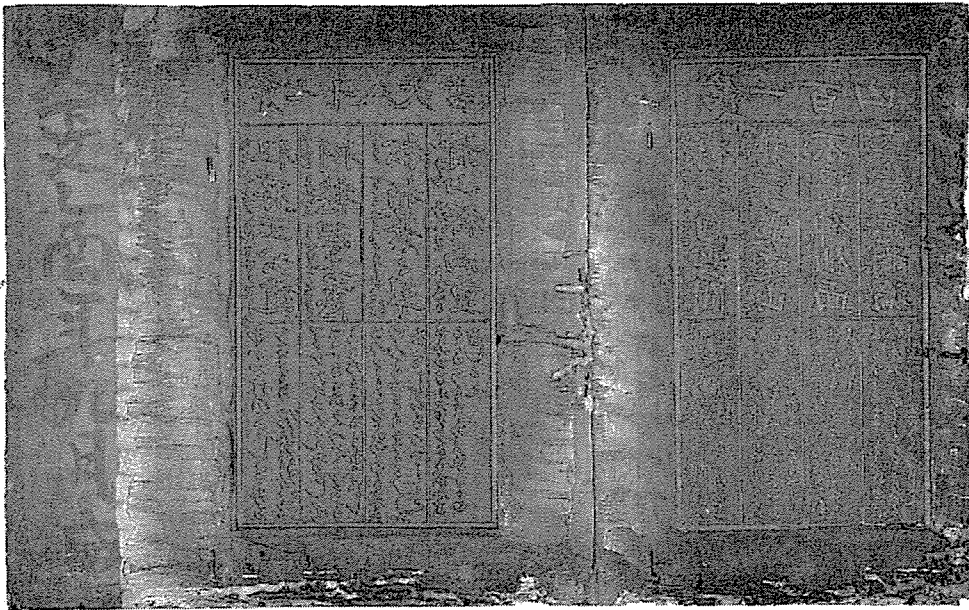
No. 3



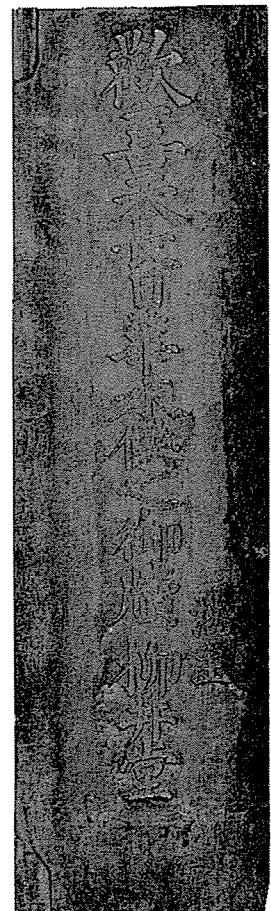
No. 4



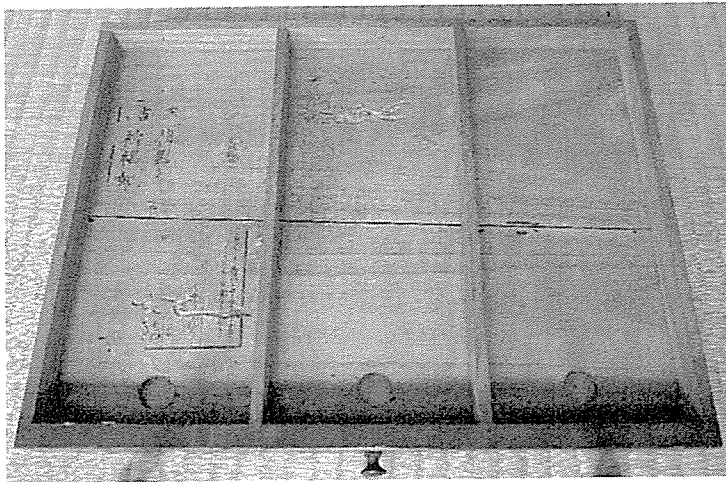
No. 1 4 (裏面)



No. 5 2 (裏面) ※正転

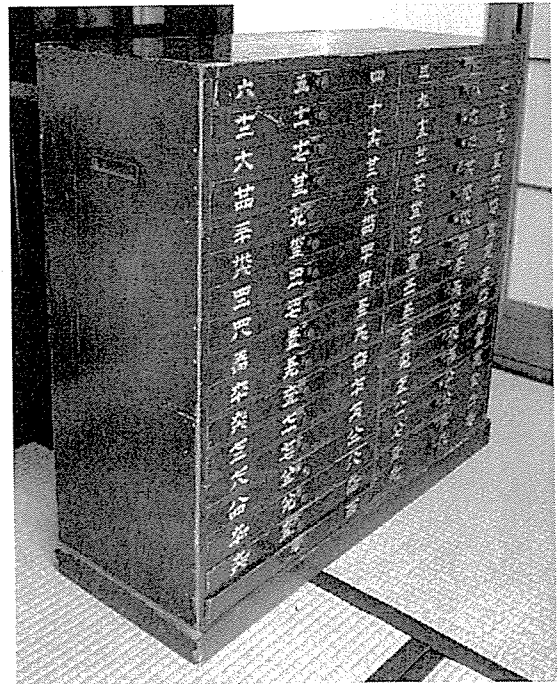


No. 2 4

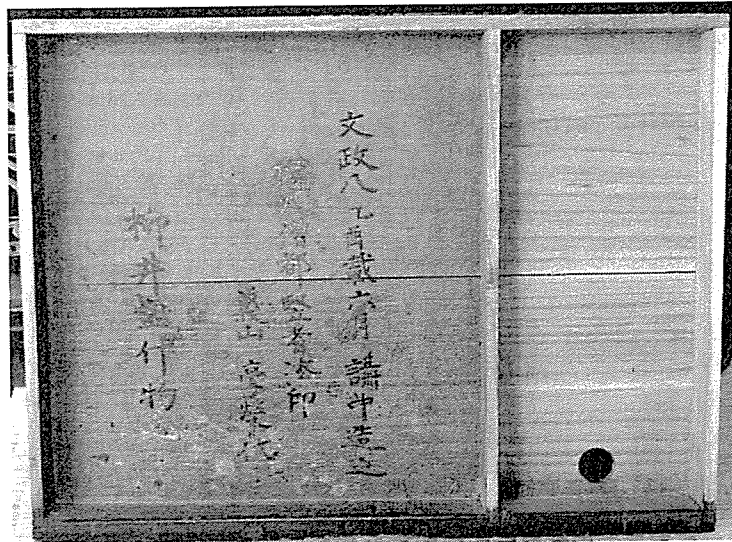


御鬮筆筒（四番・五番・六番の抽斗）

※六番の御鬮をいれる場所に紙片が貼り付いている。

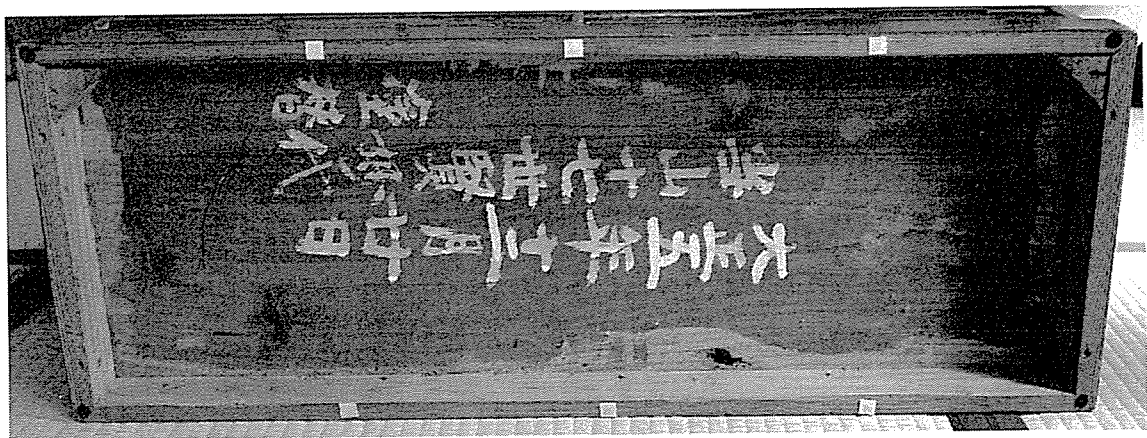


御鬮筆筒



御鬮筆筒

（一百番の抽斗の銘文）



御鬮筆筒（底裏の銘文）

表1 心城院版木一覧

No.	分類	名称	縦	横	厚	時代	銘文	備考
1	絵像類	弁財天坐像	17.1	8.9	4.0	(江戸時代)		
2	絵像類	童子経曼荼羅図	42.1	24.0	2.3	(江戸時代)		主尊(乾闥婆)の周囲に十五童子鬼神をめぐらす
3	絵像類	観音坐像	42.5	19.2	2.5	(江戸時代)		端食に一部虫損
4	絵像類	日之出大黒天像	24.9	20.4	2.0	(近代)		
5	経典類	妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五(五)／妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五(二)	16.4	50.3	2.5	(近世～近代)		表裏共一部白黴あり、墨固まり付着
6	経典類	妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五(三)／妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五(四)	16.5	50.2	1.9	(近世～近代)		裏面は天地逆に刻む、左の端食外れかけ、表裏共墨固まり付着
7	経典類	妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五(五)、題箋「普門品」	16.6	50.2	2.2	(近世～近代)	裏面墨書「普門品板木」	経文と題箋は天地逆に刻む
8	経典類	大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品／大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品(二)	15.5	49.0	2.4	(近世～近代)		虫損、左右の端食接着剤で固定
9	経典類	大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品(三)／大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品(四)	15.7	48.8	2.5	(近世～近代)		
10	経典類	大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品(五)／大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品(六)	15.6	48.8	2.3	(近世～近代)		虫損、右の端食下部虫損による欠けあり、左の端食外れかけ
11	経典類	大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品(七)／大楽金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品(八)、題箋「般若理趣経」字体五種	15.3	49.5	2.4	(近世～近代)		左の端食欠失、右の端食虫損・外れかけ、下部虫損
12	経典類	大聖欽喜天使咒法経／大聖欽喜天使咒法経(二)	15.8	48.8	2.5	(近世～近代)	右の端食右側面朱書「使 一 二」、左の端食左側面朱書「使 一 二」	
13	経典類	大聖欽喜天使咒法経(三)／題箋五種「使咒法経」	15.8	48.4	2.4	(近世～近代)	右の端食右側面朱書「使 三」、左の端食左側面朱書「使 三」	
14	経典類	大聖欽喜天使咒法経／大聖欽喜天使咒法経(二)	14.5	48.6	2.4	(近世～近代)	右の端食右側面墨書「使咒法経」、左の端食左側面墨書「使咒法経」	経文に総ルビ
15	経典類	大聖欽喜天使咒法経(三)／摩訶般若波羅蜜多心経、題箋「般若心経」字体五種	14.4	48.5	2.1	(近世～近代)	右の端食右側面墨書「心経 使咒法経」、左の端食左側面墨書「心経 使咒法経」	表面は経文に総ルビ、裏面左に欠損あり
16	経典類	聖天講式(次伝供、次法用)(一)／聖天講式(二)	13.4	55.0	2.1	文久元年(1861)		右の端食外れかけ
17	経典類	聖天講式(三)／聖天講式(四)	13.4	54.6	2.2	文久元年(1861)		左の端食外れ
18	経典類	聖天講式(五)／聖天講式(六)	13.3	55.5	2.3	文久元年(1861)		左の端食欠損、裏面は天地逆に刻む
19	経典類	聖天講式(七)／聖天講式(八)	13.2	54.7	2.0	文久元年(1861)		表面上部中央に割れあり、上部虫損1ヶ所あり
20	経典類	聖天講式(九)／聖天講式(十)、題箋「大聖欽喜天講式」字体二種	13.5	55.4	1.8	文久元年(1861)	裏面刻銘「上木施主 薬師寺嘉兵衛・同 駒次郎」	右の端食欠損、裏面に題箋と思われる刻銘あり
21	経典類	欽喜天和讃／欽喜天和讃(二)	15.5	48.6	2.5	(近世～近代)	右の端食脇朱書「和 一 二」、左の端食脇朱書「和 一 二」	左の端食下部虫損
22	経典類	欽喜天和讃(三)／欽喜天和讃(四)、題箋二種「欽喜天和讃」	15.5	48.3	2.4	(近世～近代)	右の端食脇朱書「和 三 四」、左の端食脇朱書「和 三 四」	左の端食下部虫損
23	札類	浴油供御牘	46.9	13.5	2.7	(江戸時代)		
24	札類	欽喜天長日華水供之御牘	47.0	13.6	2.5	(江戸時代)		

25	札類	華水供御贖	13.3	4.2	3.3	(江戸時代)		
26	札類	御祈禱浴油供贖	13.3	4.1	2.4	(江戸時代)		
27	札類	星供御守護	10.7	4.9	2.7	(江戸時代)		
28	札類	御祈禱日供講御守護	9.8	3.8	2.3	(近世～近代)	裏面墨書「日供」	
29	札類	真言	11.5	2.9	3.6	(江戸時代)		
30	札類	真言	11.4	3.3	3.7	(江戸時代)		
31	札類	真言	11.5	3.3	3.7	(江戸時代)		
32	札類	真言札	17.0	7.6	2.5	大正6年(1917) 4月	裏面墨書「大正六年 四月吉日／湯島聖 天堂／醍醐代」	
33	札類	立春大吉祥	29.4	5.5	1.3	昭和28年 (1953)12月20 日	裏面墨書「昭和廿八 年十二月廿日 心城 院」	
34	札類	大般若経転読札	30.7	9.1	1.8	(近代)		
35	札類	奉転読大般若経六百軸福寿増長祈攸	15.9	4.0	1.7	(近代)	裏面墨書「本郷湯島 心城院／チクマン」	
36	御隨	御隨(一～三)／御隨(四～六)	21.5	34.6	2.1	文政8年(1825) 9月		
37	御隨	御隨(七～九)／御隨(十～十二)	21.8	34.7	1.8	文政8年(1825) 9月		
38	御隨	御隨(十三～十五)／御隨(十六～十八)	21.7	34.9	2.1	文政8年(1825) 9月		
39	御隨	御隨(十九～二十一)／御隨(二十二～二十四)	21.7	34.8	2.1	文政8年(1825) 9月		
40	御隨	御隨(二十五～二十七)／御隨(二十八～三十)	21.2	34.7	2.0	文政8年(1825) 9月		
41	御隨	御隨(三十一～三十三)／御隨(三十四～三十六)	21.8	34.8	2.1	文政8年(1825) 9月		
42	御隨	御隨(三十七～三十九)／御隨(四十～四十二)	21.4	34.8	2.2	文政8年(1825) 9月		
43	御隨	御隨(四十三～四十五)／御隨(四十六～四十八)	21.5	34.7	2.2	文政8年(1825) 9月		裏面下部割れ、虫損
44	御隨	御隨(四十九～五十一)／御隨(五十二～五十四)	21.5	34.7	2.3	文政8年(1825) 9月		下部虫損
45	御隨	御隨(五十五～五十七)／御隨(五十八～六十)	21.6	34.8	1.8	文政8年(1825) 9月		下部虫損
46	御隨	御隨(六十一～六十三)／御隨(六十四～六十六)	21.2	35.0	1.8	文政8年(1825) 9月		上部左上破損、下部虫損甚
47	御隨	御隨(六十七～六十九)／御隨(七十～七十二)	21.2	34.8	2.1	文政8年(1825) 9月		下部虫損甚
48	御隨	御隨(七十三～七十五)／御隨(七十六～七十八)	21.8	34.1	2.8	文政8年(1825) 9月		下部破損、虫損甚、御隨(七十八)一行分割り抹消
49	御隨	御隨(七十九～八十一)／御隨(八十二～八十四)	21.6	34.4	2.1	文政8年(1825) 9月		裏面見当端虫損による割れあり
50	御隨	御隨(八十五～八十七)／御隨(八十八～九十)	21.6	34.7	1.8	文政8年(1825) 9月		表面見当破損、虫損
51	御隨	御隨(九十一～九十三)／御隨(九十四～九十六)	21.1	34.8	1.9	文政8年(1825) 9月		下部破損、虫損甚
52	御隨	御隨(九十七～九十九)／御隨(一百、七十八)	21.8	34.6	2.2	文政8年(1825) 9月	裏面墨書「文政乙酉 年九月成」	下部破損甚、虫損
53	その他	順気湯功能書／順気湯包紙	16.8	24.1	2.3	(江戸時代)		虫損甚
54	その他	受領証	22.5	12.3	1.4	(近世～近代)		反り
55	その他	御祈禱巻数	15.1	38.3	2.8	(近代)		別材として見当を右下と下に付ける
56	その他	大浴油供祈禱修行案内／題箋「光明供」字体二種	15.4	8.9	1.6	(近代)		
57	その他	御供米	24.2	12.1	2.2	(近代)		
58	その他	年賀状	15.2	8.8	1.9	(近代)		
59	その他	無常(和歌)	24.0	7.8	2.7	(近代力)		

資料 1

心城院版木 銘文

No. 3 觀音坐像

大悲大名稱
吉祥安樂人
恒說吉祥句
救濟極苦者

No. 4 日之出大黑天像

傳教大師御作
日之出大黑尊天
法緣衆生緣
無邊緣福壽
增長

No. 5 妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

(No. 5 表)

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五
爾時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌
向佛而作是言世尊觀世音菩薩以何因緣
名觀世音佛告無盡意菩薩善男子若有無
量百千萬億衆生受諸苦惱聞是觀世音菩
薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其音聲皆
得解脫
若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不

能燒由是菩薩威神力故

若爲大水所漂稱其名號即得淺處

若有百千萬億衆生爲求金銀琉璃砮磲碼

瑙珊瑚琥珀眞珠等寶入於大海假使黑風

吹其船舫飄墮羅刹鬼國其中若有乃至一

人稱觀世音菩薩名者是諸人等皆得解脫

羅刹之難以是因緣名觀世音

若復有人臨當被害稱觀世音菩薩名者彼

所執刀杖尋段段壞而得解脫

若三千大千國土滿中夜叉羅刹欲來惱人

聞其稱觀世音菩薩名者是諸惡鬼尚不能

以惡眼視之況復加害

設復有人若有罪若無罪枷鎖檢繫其

身稱觀世音菩薩名者皆悉斷壞即得解脫

若三千大千國土滿中怨賊有一商主將諸

商人齎持重寶經過險路其中一人作是唱

(No. 5 裏・符丁「二」)

言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心稱觀

世音菩薩名號是菩薩能以無畏施於衆生

汝等若稱名者於此怨賊當得解脫衆商人

聞俱發聲言南無觀世音菩薩稱其名故即

得解脫

無盡意觀世音菩薩摩訶薩威神之力巍巍

如是

若有衆生多於姪欲常念恭敬觀世音菩薩

便得離欲若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩

便得離瞋若多愚癡常念恭敬觀世音菩薩

便得離癡無盡意觀世音菩薩有如是等大威神力多所饒益是故衆生常應心念

若有女人設欲求男禮拜供養觀世音菩薩便生福德智慧之男設欲求女便生端正有相之女宿植德本衆人愛敬無盡意觀世音菩薩有如是力若有衆生恭敬禮拜觀世音菩薩福不唐捐

是故衆生皆應受持觀世音菩薩名號無盡意若有人受持六十二億恒河沙菩薩名字復盡形供養飲食衣服臥具醫藥於汝意云何是善男子善女人功德多不無盡意言甚多世尊佛言若復有人受持觀世音菩薩名號乃至一時禮拜供養是二人福正等無異於百千萬億却不可窮盡無盡意受持觀世音菩薩名號得如是無量無邊福德之利無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何遊此娑婆世界云何而爲衆生說法方便之力其事云何佛告無盡意菩薩善男子若有

(No. 6 表·符丁「三」)

國土衆生應以佛身得度者觀世音菩薩即現佛身而爲說法應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而爲說法應以聲聞身得度者即現聲聞身而爲說法應以梵王身得度者即現梵王身而爲說法應以帝釋身得度者即現帝釋身而爲說法應以自在天身得度者即現自在天身而爲說法應以大自在天身得度者即現大自在天身而爲說法應以

天大將軍身得度者即現天大將軍身而爲

說法應以毘沙門身得度者即現毘沙門身而爲說法應以小王身得度者即現小王身而爲說法應以長者身得度者即現長者身而爲說法應以居士身得度者即現居士身而爲說法應以宰官身得度者即現宰官身而爲說法應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而爲說法應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身而爲說法應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦女身而爲說法應以童男童女身得度者即現童男童女身而爲說法應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即皆現之而爲說法應以執金剛神得度者即現執金剛神而爲說法無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種種形遊諸國土度脫衆生是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無畏是故此娑婆世界皆號之爲施無畏

(No. 6 裏·符丁「四」)

者無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀世音菩薩即解頸衆寶珠瓔珞價直百千兩金而以與之作是言仁者受此法施珍寶瓔珞時觀世音菩薩不_レ受之無盡意復白觀世音菩薩言仁者愍我等故受此瓔珞爾時佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩及四

衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅
摩睺羅伽人非人等故受是瓔珞即時觀世
音菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受其
瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼佛一分奉
多寶佛塔無盡意觀世音菩薩有如是自在
神力遊於娑婆世界爾時無盡意菩薩以偈

問曰

世尊妙相具我今重問彼佛子何因緣名爲觀世音
具足妙相尊偈答無盡意汝聽觀音行善應諸方所
弘誓深如海歷却不思議侍多千億佛發大清淨願
我爲汝略說聞名及見身心念不空過能滅諸有苦
假使興害意推落大火坑念彼觀音力火坑變成池
或漂流巨海龍魚諸鬼難念彼觀音力波浪不能沒
或在須彌峰爲人所推墮念彼觀音力如日虛空住
或被惡人逐墮落金剛山念彼觀音力不能損一毛
或值怨賊繞各執刀加害念彼觀音力咸即起慈心
或遭王難苦臨刑欲壽終念彼觀音力刀尋段段壞
或囚禁枷鎖手足被桎械念彼觀音力釋然得解脫
咒詛諸毒藥所欲害身者念彼觀音力還著於本人
或遇惡羅刹毒龍諸鬼等念彼觀音力時悉不敢害
若惡獸圍繞利牙爪可怖念彼觀音力疾走無邊方
蚺蛇及蝮蟻氣毒煙火然念彼觀音力尋聲自迴去
(No. 7 表·符丁「五」)

雲雷鼓掣電降雹澍大雨念彼觀音力應時得消散
衆生被困厄無量苦逼身觀音妙智力能救世間苦
具足神通力廣修智方便十方諸國土無刹不現身
種種諸惡趣地獄鬼畜生生老病死苦以漸悉令滅

眞觀清淨觀廣大智慧觀悲觀及慈觀常願常瞻仰

無垢清淨光慧日破諸闇能伏災風火普明照世間

悲體戒雷震慈意妙大雲澍甘露法雨滅除煩惱蝕

諍訟經官處怖畏軍陣中念彼觀音力衆怨悉退散

妙音觀世音梵音海潮音勝彼世間音是故須常念

念念勿生疑觀世音淨聖於苦惱死厄能爲作依怙

具一切功德慈眼視衆生福聚海無量是故應頂禮

爾時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若

有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門

示現神通力者當知是人功德不少佛說是

普門品時衆中八萬四千衆生皆發無等等

阿耨多羅三藐三菩提心

(題箋)

普門品

No. 8 11 大樂金剛不空眞實三摩耶般若波羅蜜多理趣品

(No. 8 表)

歸命毘盧遮那佛 無染無著眞理趣

生生值遇無相教 世世持誦不忘念

護持本尊增法樂

大樂金剛不空眞實三摩耶經

般若波羅蜜多理趣品

大興善寺三藏沙門大廣智不空奉 詔譯

如是我聞一時薄伽梵成就殊勝一切如來

金剛加持三摩耶智已得一切如來灌頂寶

冠爲三界主已證一切如來一切智智瑜伽

自在能作一切如來一切印平等種種事業
於無盡無餘一切衆生界一切意願作業皆
悉圓滿常恒三世一切時身語意業金剛大
毘盧遮那如來在於欲界他化自在天王宮
中一切如來常所遊處吉祥稱歎大摩尼殿
種種間錯鈴鐸繪幡微風搖擊珠鬘瓔珞半
滿月等而爲莊嚴與八十俱二菩薩衆俱所
謂金剛手菩薩摩訶薩觀自在菩薩摩訶薩
虛空藏菩薩摩訶薩金剛拳菩薩摩訶薩文
殊師利菩薩摩訶薩繞發心轉法輪菩薩摩
訶薩虛空庫菩薩摩訶薩摧一切魔菩薩摩
訶薩與如是等大菩薩衆恭敬圍繞而爲說
法初中後善文義巧妙純一圓滿清淨潔白
說一切法清淨句門所謂妙適清淨句是菩
薩位慾箭清淨句是菩薩位觸清淨句是菩
薩位愛縛清淨句是菩薩位一切自在主清
淨句是菩薩位見清淨句是菩薩位適悅清
淨句是菩薩位愛清淨句是菩薩位慢清淨
(No. 8裏・符丁「二」)

獄等趣設作重罪消滅不難若能受持日日
讀誦作意思惟卽於現生證一切法平等金
剛三摩地於一切法皆得自在受於無量適
悅歡喜以十六大菩薩生獲得如來執金剛
位時薄伽梵一切如來大乘現證三摩耶一
切曼荼羅持金剛勝薩埵於三界中調伏無
餘一切義成就金剛手菩薩摩訶薩爲欲重
顯明此義故熙怡微笑左手作金剛慢印右
手抽擲本初大金剛作勇進勢說大樂金剛
不空三摩耶心
(ウム)

時薄伽梵毘盧遮那如來復說一切如來寂
靜法性現等覺出生般若理趣所謂金剛平
等現等覺以大菩提金剛堅固故義平等現
等覺以大菩提一義利故法平等現等覺以
大菩提自性清淨故一切業平等現等覺以
大菩提一切分別無分別性故金剛手若有
聞此四出生法讀誦受持設使現行無量重
罪必能超越一切惡趣乃至當坐菩提道場
速能尅證無上正覺時薄伽梵如是說已欲
(No. 9表・符丁「三」)

重顯明此義故熙怡微笑持智拳印說一切
法自性平等心
(アケ)

時調伏難調釋迦牟尼如來復說一切法平
等最勝出生般若理趣所謂慾無戲論性故
瞋無戲論性瞋無戲論性故癡無戲論性癡

無戲論性故一切法無戲論性一切法無戲論性故應知般若波羅蜜多無戲論性金剛手若有聞此理趣受持讀誦設害三界一切有情不墮惡趣爲調伏故疾證無上正等菩提時金剛手大菩薩翌重顯明此義故持降三世印以蓮華面微笑而怒頰眉猛視利牙出現住降伏立相說此金剛吽迦羅心

(ウム)

時薄伽梵得自性清淨法性如來復說一切法平等觀自在智印出生般若理趣所謂世間一切慾清淨故即一切瞋清淨世間一切垢清淨故即一切罪清淨世間一切法清淨故即一切有情清淨世間一切智智清淨故即般若波羅蜜多清淨金剛手若有聞此理趣受持讀誦作意思惟設住諸慾猶如蓮華不爲客塵諸垢所染疾證無上正等菩提時薄伽梵觀自在大菩薩欲重顯明此義故熙怡微笑作開敷蓮華勢觀慾不染說一切群生種種色心

(キリク)

時薄伽梵一切三界主如來復說一切如來灌頂智藏般若理趣所謂以灌頂施故能得

(No.9裏・符丁「四」)

三界法王位義利施故得一切意願滿足以法施故得圓滿一切法資生施故得身口意一切安樂時虛空藏大菩薩欲重顯明此義故熙怡微笑以金剛寶鬘自繫其首說一切

灌頂三摩耶實心

(タラン)

時薄伽梵得一切如來智印如來復說一切如來智印加持般若理趣所謂持一切如來身印即爲一切如來身持一切如來語印即得一切如來法持一切如來心印即證一切如來三摩地持一切如來金剛印即成就一切如來身口意業最勝悉地金剛手若有聞此理趣受持讀誦作意思惟得一切自在一切智智一切事業一切成就得一切身口意金剛性一切悉地疾證無上正等菩提時薄伽梵爲欲重顯明此義故熙怡微笑持金剛拳大三摩耶印說此一切堅固金剛印悉地三摩耶自眞實心

(アク)

時薄伽梵一切無戲論如來復說轉字論般若理趣所謂諸法空與無自性相應故諸法無相與無相性相應故諸法無願與無願性相應故諸法光明般若波羅蜜多清淨故時文殊師利童眞欲重顯明此義故熙怡微笑以自劔揮斫一切如來以說此般若波羅蜜多最勝心

(アン)

時薄伽梵一切如來入大輪如來復說入大

(No.10表・符丁「五」)

輪般若理趣所謂入金剛平等則入一切如來法輪入義平等則入大菩薩輪入一切法

平等則入妙法林入一切業平等則入一切事業輪時纔發心轉法輪大菩薩欲重顯明此義故熙以微笑轉金剛輪說一切金剛三摩耶心

(ウン)

時薄伽梵一切如來種種供養藏廣大儀式如來復說一切供養最勝出生般若理趣所謂發菩提心則爲於諸如來廣大供養救濟一切衆生則爲於諸如來廣大供養受持妙典則爲於諸如來廣大供養於般若波羅蜜多受持讀誦自書教他書思惟修習種種供養則爲於諸如來廣大供養時虛空庫大菩薩欲重顯明此義故熙怡微笑說此一切事業不空三摩耶一切金剛心

(ヨン)

時薄伽梵能調持智拳如來復說一切調伏智藏般若理趣所謂一切有情平等故忿怒平等一切有情調伏故忿怒調伏一切有情法性故忿怒法性一切有情金剛性故忿怒金剛性何以故一切有情調伏則爲菩提時摧一切魔大菩薩欲重顯明此義故熙怡微笑以金剛藥叉形持金剛牙恐怖一切如來已說金剛忿怒大笑心

(カク)

時薄伽梵一切平等建立如來復說一切法三摩耶最勝出生般若理趣所謂一切平等

(No. 10 裏・符丁「六」)

性故般若波羅蜜多平等性一切義利性故般若波羅蜜多義利性一切法性故般若波羅蜜多法性一切事業性故般若波羅蜜多事業性應知時金剛手入一切如來菩薩三摩耶加持三摩地說一切不空三摩耶心

(ウム)

時薄伽梵如來復說一切有情加持般若理趣所謂一切有情如來藏以普賢菩薩一切我故一切有情金剛藏以金剛藏灌頂故一切有情妙法藏能轉一切語言故一切有情羯磨藏能作所作性相應故時外金剛部欲重顯明此義故作歡喜聲說金剛自在自真實心

(チリ)

爾時七母女天頂禮佛足獻鈎召攝入能殺能成三摩耶真實心

(ヒユ)

爾時末時迦羅天三兄弟等親禮佛足獻自心眞言

(ソバ)

爾時四姊妹女天獻自心眞言

(カン)

時薄伽梵無量無邊究竟如來爲欲加持此教令究竟圓滿故復說平等金剛出生般若理趣所謂般若波羅蜜多無量故一切如來無量般若波羅蜜多無邊故一切如來無邊

一切法一性故般若波羅蜜多一性一切法
究竟故般若波羅蜜多究竟金剛手若有聞
(No. 11 表·符丁「七」)

此理趣受持讀誦思惟其義彼於佛菩薩行
皆得究竟

時薄伽梵毘盧遮那得一切秘密法性無戲
論如來復說最勝無初中後大樂金剛不空
三摩耶金剛法性般若理趣所謂菩薩摩訶
薩大慾最勝成就故得大樂最勝成就菩薩
摩訶薩得大樂最勝成就故則得一切如來
大菩提最勝成就菩薩摩訶薩得一切如來
大菩提最勝成就故則得一切如來摧大力
魔最勝成就菩薩摩訶薩得一切如來摧大
力魔最勝成就故則得遍三界自在主成就
菩薩摩訶薩得遍三界自在主成就故則得
淨除無餘界一切有情住著流轉以大精進
常處生死救攝一切利益安樂最勝究竟皆
悉成就何以故

菩薩勝慧者乃至盡生死恒作衆生利而不趣涅槃
般若及方便智度悉加持諸法及諸有一切皆清淨
慾等調世間令得淨除故有頂及惡趣調伏盡諸有
如蓮體不染不爲垢所染諸慾性亦然不染利群生
大慾得清淨大安樂富饒三界得自在能作堅固利
金剛手若有聞此本初般若理趣日日晨朝
或誦或聽彼獲一切安樂悅意大樂金剛不
空三昧究竟悉地現世獲得一切法自在悅
樂以十六大菩薩生得於如來執金剛位

(ウム)

爾時一切如來及持金剛菩薩摩訶薩等皆
來集會欲令此法不空無礙速成就故咸共
稱讚金剛手言

(No. 11 裏·符丁「八」)

善哉善哉大薩埵 善哉善哉大安樂
善哉善哉摩訶衍 善哉善哉大智慧
善能演說此法教 金剛修多羅加持
持此最勝教王者 一切諸魔不能壞
得佛菩薩最勝位 於諸悉地當不久
一切如來及菩薩 共作如是勝說已
爲令持者悉成就 皆大歡喜信受行
般若理趣經

毘盧遮那佛 毘盧遮那佛
毘盧遮那佛 毘盧遮那佛
毘盧遮那佛 毘盧遮那佛
我等所修三昧善 迴向最上大悉地
哀愍攝受願海中 消除業障證三昧
天衆神祇增威光 當所權現增法樂
本尊界會增法樂 貴賤靈等成佛道
聖朝安穩增寶壽 天下安穩興正法
護持弟子除不祥 滅罪生善成大願
菩提行願不退轉 引導三有及法界
同一性故入阿字

(題箋)

般若理趣經

般若理趣經

般若理趣經

般若理趣經

般若理趣經

No. 12 5 13 大聖歡喜天使咒法經

(No. 12 表)

大聖歡喜天使咒法經

南天竺三藏菩提留支奉 詔譯

爾時。毘那夜迦。於鷄羅山。集諸大眾。梵天。自

在天。釋提桓因等。及無量億數鬼神等。從座

而起。稽首作禮。於大自在天。請言。我今欲說。

一字咒。饒益衆生。唯願印可。聽我所說諸天

言。善哉。如汝所說。毘那夜迦。得說。歡喜踊躍。

即說。毘那夜迦。一字咒曰

(オン・ギャク・ギヤ・キリク オン・カ・ウン・ハツ・夕)

唵盧伽頡里唵訶 卍 卍

欲作此法。先須造像。或用白鐵。及金銀銅樺

木等。各刻。作其形像。夫婦二身。和合相抱。立

竝作。象頭人身。其造像直。不得還價。造其像

已。白月一日。於淨室內。用淨牛糞。磨作圓壇。

隨意大小。當取一升。胡麻油。用上咒。咒其淨

油。一百八遍。煙其油。以淨銅器。盛著煙油。然

後。將像放著。銅盤油中。安置壇內。用淨銅匙。

若銅杓等。攪油灌其。二像身頂。一百八遍。以

後日日。更咒舊油。一百八遍。一日之中。七遍

灌之。平旦四遍。日午三遍。共成七遍。如是作

法。乃至七日。隨心所願。成即得稱意。正灌油

時。數數發願。用酥蜜。和麩作團。蘿蔔根。并盞

酢酒漿。如是。日成獻食。必須自食。方得氣力

爾時。毘那羅曩伽。將領九千八百。諸大鬼王。

(No. 12 裏・符丁 二二)

遊行三千世界。我等所爲。神力自在。遍歷諸

方。奉衛三寶。已大慈悲。利益衆生。向於世尊。

俱發聲言。我以自在神通。故號毘那羅曩伽。

亦名毘那夜迦。亦名毘微那曩伽。亦曰摩訶

毘那夜迦。如是四天下。稱皆不同。我於出世。

復有別名。即以神變。昇虛空。而說偈言

我有微妙法 世間甚稀有 衆生受持者

皆與願滿足 我行順世法 世示稀有事

我能隨其願 有求名遷官 我使國王召

有求世異寶 使世積珍利 家豐足七珍

世皆所稀有 有求色美者 發願宛然至

莫須言遠近 高貴及難易 志心於我者

我使須臾間 有衆生疾苦 顛狂及疥癩

疾毒衆不利 百種害加惱 誦我陀羅尼

無不解脫者 獨行暗冥處 依我皆無畏

却賊忽然侵 我皆令自縛 若欲自然福

若有求女人 夫心令得女 我必令相愛

世間陵突者 我悉令摧伏 逍遙自快樂

宛然無所乏 有念皆稱遂 隨有成滿足

設衆惡來侵 我使如其意 我悉能加護

住居皆吉慶 宅舍悉清寧 男女得英名

夫妻順和合 上品持我者 我與人中王

中品持我者 我與爲帝師 下品持我者
富貴無窮已 恒欲相娛樂 無不充滿足
奴婢列成群 美女滿衢庭 遊行得自在
隱顯能隨念 出入無所礙 無能測量者
我於三界中 神力得自在 降世稀有事
我皆悉所爲 若說我所能 窮却不能盡

(No. 13 表・符丁「三」)

持我陀羅尼 我皆現其前 夫妻及眷屬
當隨得衛護 我有遊行時 誦我即時至
過於險難處 大海及江河 深山險隘處
師子象虎狼 毒蟲諸神難 持我皆安穩
若有侵燒者 頭破作七分 壽命悉長遠
福祿自遷至
爾時。毘那夜羅迦。說是偈已。告世人言。說處
世陀羅尼法。最護衆生。隨其所願。皆得滿足。
當須日夜。誦持。滿十萬遍。乃至二十萬遍。皆
得如所說。即昇虛空。即說咒曰

(真言)

曩牟毘那夜迦^上寫。訶悉知目佉^上寫。怛姪
佉。三阿智耶那智耶。^{二合}殊幡帝耶。六烏悉
曇^{二合}迦耶。七悉婆^{二合}拖鉢耶。八婆達薩寫耶。
九婆喇跛遲。十莎訶

大聖歡喜天使咒法經

(No. 13 裏)

(題箋)

使咒法經

使咒法經
使咒法經
使咒法經

No. 14 15 (表) 大聖歡喜天使咒法經

(No. 14 表)

大聖歡喜天使咒法經

南天竺三藏菩提留支奉 詔譯

爾時。毘那夜迦。於鷄羅山。集諸大衆。梵天。自
在天。釋提桓因等。及無量億數鬼神等。從座
而起。稽首作禮。於大自在天。請言。我今欲說。
一字咒。饒益衆生。唯願印可。聽我所說諸天
言。善哉。如汝所說。毘那夜迦。得說。歡喜踊躍。
即說。毘那夜迦。一時咒曰

(オン・ギャク・ギャ・キリク オン・カ・ウン・ハツ・夕)

唵虐伽頌里唵訶泮

欲作此法。先須造像。或用白鐵。及金銀銅樺

木等。各刻。作其形像。夫婦二身。和合相抱。立

竝作象頭人身。其造像直。不得還價。造其像

已。白月一日。於淨室內。用淨牛糞。磨作圓壇。

隨意大小。當取一升。胡麻油。用上咒。咒其淨

油。一百八遍。煙其油。以淨銅器。盛著煙油。然

後。將像放著。銅盤油中。安置壇內。用淨銅匙。

若銅杓等。攪油灌其。二像身頂。一百八遍。以

後日日。更咒舊油。一百八遍。一日之中。七遍

灌之。平旦四遍。日午三遍。共成七遍。如是作

法。乃至七日。隨心所願。成即得稱意。正灌油
時。數數發願。用酥蜜。和麩作團。蘿蔔根。并盞
酥酒漿。如是。日成獻食。必須自食。方得氣力
爾時。毘那羅曩伽。將領九千八百。諸大鬼王。

(No. 14 裏・符丁「二」)

遊行三千世界。我等所爲。神力自在。遍歷諸
方。奉衛三寶。已大慈悲。利益衆生。向於世尊。
俱發聲言。我以自在神通。故號毘那羅曩伽。
亦名毘那夜迦。亦名毘微那曩伽。亦曰摩訶
毘那夜伽。如是四天下。稱皆不同。我於出世。
復有別名。即以神變。昇虛空。而說偈言
我有微妙法。世間甚稀有。衆生受持者
皆與願滿足。我行順世法。世示稀有事
我能隨其願。有求名遷官。我使國王召
有求世異寶。使世積珍利。家豐足七珍
世皆所稀有。有求色美者。發願宛然至
莫須言遠近。高貴及難易。志心於我者
我使須臾間。有衆生疾苦。顛狂及疥癩
疾毒衆不利。百種害加惱。誦我陀羅尼
無不解脫者。獨行暗冥處。依我皆無畏
却賊忽然侵。我皆令自縛。若欲自然福
若有求女人。夫心令得女。我必令相愛
世間陵突者。我悉令摧伏。逍遙自快樂
宛然無所乏。有念皆稱遂。隨有咸滿足
設衆惡來侵。我使如其意。我悉能加護
住居皆吉慶。宅舍悉清寧。男女得英名
夫妻順和合。上品持我者。我與人中王

中品持我者。我與爲帝師。下品持我者
富貴無窮已。恒欲相娛樂。無不充滿足
奴婢列成羣。美女滿衢庭。遊行得自在
隱顯能隨念。出入無所礙。無能測量者
我於三界中。神力得自在。降世稀有事
我皆悉所爲。若爲我所能。窮却不能盡

(No. 15 表・符丁「三」)

持我陀羅尼。我皆現其前。夫妻及眷屬
當隨得衛護。我有遊行時。誦我即時至
過於險難處。大海及江河。深山險險處
師子象虎狼。毒蟲諸神難。持我皆安穩
若有侵燒者。頭破作七分。壽命悉長遠
福祿自遷至
爾時。毘那夜羅迦。說是偈已。告世人言。說處
世陀羅尼法。最護衆生。隨其所願。皆得滿足。
當須日夜。誦持。滿十萬遍。乃至二十萬遍。皆
得如所說。即昇虛空。即說咒曰

(真言)

毘那夜羅迦。訶悉知目佉寫。怛姪
侘。三阿智耶那智耶。二合。殊。幡。帝。耶。六。烏。悉
曇。迦。耶。七。悉。婆。拖。鉢。耶。八。婆。達。薩。寫。耶。
九。婆。喇。跛。遲。十。莎。訶

大聖歡喜天使咒法經

No. 15 (裏) 摩訶般若波羅蜜多心經

摩訶般若波羅蜜多心經

No. 16 S 20 聖天講式

(No. 16 表)

聖天講式

我此道場如帝珠。聖天部類影
現中。我身影現本尊前。頭面接
足歸命禮。

南無。大聖歡喜天王。部類眷屬
降臨道場。哀愍於我悉地圓滿

次傳供

願此香華雲。飲食燈明海。供養
歡喜天。一一皆納受。南無歸命
頂禮。大慈大悲歡喜天王

次法用 如常或三禮如來頃

謹敬白。下淨妙法身摩訶毘盧遮
那。四智四行十三大院。三部五

部諸尊聖衆。金剛甘露甚深秘
藏。四攝八供諸大菩薩。六通四

辯聲聞衆僧象頭人身摩訶頭
伽曩鉢底。九千八百部類眷屬。

摧壞一牙無憂大將埜干部主。

(No. 16 裏・符丁「二」)

諸毘那夜迦眷屬等。乃至佛眼

所照徹塵刹土海會聖衆。上而言フ

夫レ大聖歡喜天王。者。天德。叵レ測

高ク覆テ以テ無レ外。地望易シレ成リ。廣ク載テ以テ

不レ弃レ之ヲ周コ徧シテ十方ニ一衛コ護ニ三寶ヲ一。本

則チ等覺妙覺ノ尊也。祕ニ位於無垢

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五

蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不

異色色即是空空即是色受想行識亦復如

是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨

不增不減是故空中無色無受想行識無眼

耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至

無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死

亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無

所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無

所得無里碍故無有恐怖遠離一切顛倒夢

想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故

得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

多是大神咒是大明咒是無上咒是無等等

咒能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜

多咒即說咒曰揭諦揭諦波羅揭諦波羅揭

揭諦菩提娑婆訶

般若心經

(題箋)

般若心經

般若心經

般若心經

般若心經

般若心經

チノツキニ。シガハマタ
地之月一。迹亦男天女天ノ之體也リ。
垂ニ化於有漏界之雲ニ。大慈大悲ノ
之本誓無クレ疑ヒ。和光利物方便有リ
レ侍。是以テ福德才智武勇敬愛應メ
レ願。施シ玉ヒレ之ヲ。降魔調伏除病延命隨テ
レ望ソムニ成レ之ヲ。道俗貴賤誰レカ不ランレ歸敬哉。
竊以。億億生死之中。難キ受ケ者ノハ人
身也リ。劫劫流轉之際。難キ遭者ハ佛
教也リ。適難キ受ケ受ケ二人界ノ生ヲ。幸ニ難キ逢ヒ
逢フニ聖天ノ法ニ。機縁ノ之至リ感涙叵レ禁。
方ニ今マ凝ニ丹棘於心中ニ。備ニ香華ヲ於
寶前ニ。讀シ上リテ靈天ノ之懿德ヲ以テ祈ニ世ノ
悉地ヲ一爲シニ毎日ノ之勤メト。以テ展ニ一座ノ之
講筵ヲ一而已。今マ此ノ講演略有リ

五段一。一ツニハ歎ニ本地ノ高廣ヲ。二ツニハ讚シ上リニ垂迹
(No. 17 表・符丁「三」)
化道ヲ一。三ツニハ明シ上リニ誓願ノ殊勝ヲ。四ツニハ仰ニ利益ノ
無邊ヲ一。五ツニハ述ニ回向發願ヲ一也
第一歎シ上ルトニハ本地ノ高廣ヲ一者。大聖歡喜
天王ハ者。陰陽二道ノ之根元也。萬
像自リレ斯レ生長。胎金兩部之教主
也リ。諸佛因レ茲レニ降誕。然ル間華翼國
土ハ現シ玉ヘテ毘盧遮那一而輔ニ成等正覺
之道一。香集世界ニハ示ニ大虛空藏ト一而
開キシニ福智嚴淨ノ之門ヲ一令シテ胎卵濕化
羣萌一進マ中住行向地之聖位上。誠ニ是レ
往古ノ如來法ツ身ノ之大士也リ。尋上レハ三所

居一則チ我性之乾坤也リ。渴仰シ上レハ則チ必
應ズ。求レハニ其ノ利ヲ一亦已心秘藏也。勤修
則チ定メテ至ル。以所四種ノ法ツ身ノ中ニハ等流
法ツ身ナリ。播ニ利一益ヲ於三世ニ又タ三部心ノ
間タニハ金剛部ノ心ニメ。耀ニ威光ヲ於六大無
||ニ。而モ常ニ住シ玉ヘニ瑜伽四種ノ曼荼二而互ニ
不ニ相ヒ離レ一。束ニ三部ヲ一收ニ一身ニ一括ニ萬藏ヲ一
論ジニ法ヲ一。談ニ圓融ヲ一無作三諦ノ之妙
境也リ。觀ズレハニ權實不二ヲ一則チ非ニ非一ノ
之法門也リ。今マ || 本地ノ甚深ナルヲ一彌一信シ上ルニ
(No. 17 裏・符丁「四」)
靈天ノ奇特一。仍テ唱ニ歌頌一各一可レ行ズニ禮
拜一
歸命毘盧遮那佛
一心法界無上尊
事理圓融住虛空
示現大聖歡喜天
南無大聖大慈歡喜天王。
哀愍於我悉地圓滿。第二讚シ上ルトハニ垂
迹化道ヲ一者。男天ハ則チ大自在天ノ之
所變。退ソケニ天上天下ノ之魔軍ヲ一施コシ玉ヒニ今
世後世ノ利益ヲ一。女天ハ是レ觀自在尊
之應化也リ。現シ玉ヒニ一十一面ノ之聖容一
示ニ三十三身ノ之妙體ヲ一。夫婦抱立
形彰ニ十界俱融ノ之理ヲ一。或ル時ハ現シ玉ヒニ二
臂ヲ一或ル時ハ現シ玉ヲニ六臂ヲ一。皆是レ和光利物ノ
之表示。隨類應同ノ之相貌也リ。加

往古ノ如來法ツ身ノ之大士也リ。尋上レハ三所

ノミナラズイソククトウナカニハルカニヨシ
之鶏足洞中 遥期二十五億七

千萬歳ノ之出生ヲ。象頭山上多ク隨カヘニ

十二大天九千八百ノ之眷屬ヲ。自リニ

四部ノ大將一ニ至ルマデ一切鬼神ニ共ニ爲タリ聖

天ノ變化一。致シテ各々衆生ノ擁護一。外ニハ雖ヘレ現シテフトニ

(No. 8 表・符丁「五」)
忿怒之形チラ内ニハ住シテマニ慈悲心ニ。總是レ折

伏攝受之靈天也。豈ニ非ニ拔苦與

樂ノ薩埵ニ哉。曰ヒ内曰ヒ外不スレ可ラ不レ仰。

仍テ唱テ歌頌ヲ宜ク致レ禮拜ヲ

大自在天觀世音

雙身隨類度衆生

感應道交難思議

是故我禮歡喜天

南無大聖大慈大悲歡喜天王。

哀愍於我悉地圓滿。」第三明シ上ルトハ誓

願ノ殊勝ナルヲ一者。經ニ云ク上品持レ我ヲ者與

レ為ニ人中ノ王一。中品ニ持レ我ヲ者ハ爲シニ帝ノ師ト一。

下品ニ持レ我ヲ者ハ富貴無ニ窮一已。又タ云ク。

若シ人爲ニ諸天ノ所レ捨念スレ我ヲ者即時

現シニ悉地ヲ一皆ヲ満足セシメント云。當ニレ知ル此ノ天ノ利

生方便超ゴ過自餘ノ佛神ニ。觀夫レ謂ヒ

人間ノ榮耀謂ヒ世上ノ運命ト一。雖トモ馮ニ諸

神ヲ一諸神ハ不レ亨ニ非禮一之故ニ求ルニ非據一

者ノハ。丹誠屢空シ。雖ヘレ仰ニ諸佛ヲ一諸佛ハ皆ナ

因ニ宿習一之故ヘニ無キニ宿善一者ハ素懷一

レ達シ。低頭合掌ノ之功德モ徒勞シニ身心ヲ一。

(No. 8 裏・符丁「六」)

朝祈暮賽 勤似タリ。費ニ幣帛一。而ルニ此ノ歡

喜天王ハ者。猶不スレ捨玉ハニ無慙ノ之惡人タモ一

相ヒ三同ジ賢父ノ之憐ムニ愚子ヲ一。況ヤ復タ不シヤレ利セニ

有縁ノ行者ヲ一。宛如シ明王ノ之任ニ忠臣ニ一。

於戲可レ加加是レ爲ニ諸佛諸神ノ之

通例一。不レ加加只タ限ニ大聖大天ノ之

別願ニ。因テ茲ニ貧乏ノ族ヲ唱ヘ上レハニ名號ヲ一忽チ誇ニ

豐稔ノ之歡花ニ。卑賤ノ輩凝ニ信心ヲ一即チ

登ルニ高貴ノ官班ニ。是ノ故ニ大小顯密ノ之

學侶須ク下各々致シニ法樂ヲ一以テ遂中其ノ業上。詩

歌管絃之好士互觸ニ伎能ヲ一以テ揚ニ

其ノ名ヲ一。肆 緇素男女之差レ肩ヲ堂上

如クレ花ノ。老少親疎之運ヒレ歩ミヲ門前成ス

レ市ヲ。靈天誓願ノ之殊勝ナル以テレ之ヲ可ク知ル

悉地成就ノ速疾ナル以テレ之ヲ可シレ察ス。仍テ唱ヘテ

歌頌ヲ一可シレ行スニ禮拜ヲ一 弘誓深如海。

歷劫不思議。侍多千億佛。發大

清淨願。」南無大聖大慈大悲歡

喜天王。哀愍於我悉地圓滿。」第

四ニ仰ギ上ルトハニ利益ノ無邊ヲ一者。魔界佛界色

相ト而顯ニ現此土他土ニ遊行メ依ル

(No. 9 表・符丁「七」)

レ物ニハ而メ自在ノ身著シニ慈悲ノ之甲冑一鎮ニ

婆稚羅睺ノ之鬪觀一。手ニ帶ニ定慧之

弓箭ヲ一宥ニ毘盧質多ノ之邪熱一。或ハ爲ニ

或ハ爲ニ兩頭愛染王ト一廻ニ愛法指南ノ

術ヲ一。比シ上リニ德ヲ於天地ニ象ドリ上ルニ形ヲ於日月一。始メ

自リニ密嚴花藏ノ之土一。終リ暨ニ分段同

居ノ之郷一。塵塵刹刹トメ而無クレ所レ不レ至リ玉ハ

沙界恒沙界トメ而無シレ所レ不レ現シ玉ハ。上ハ遊ヒニ

碧落ニ下ハ入リ玉フニ黄泉ニ。爲ニレ施サンガニ敬愛ヲ於諸

人ニ成リ玉ヒニ道祖行神ト一。爲ニレ奏センガニ善惡ヲ於閻

王ニ成ニ司命司録神ト一。世世番番ノ利

益無クレ止各各面ノ願望事トシテ而不

レ空カラ。就クレ中ニ一生ハ有リレ限百年遂ニ窮マンヌ。最

期臨終ノ刻ミハ男天ハ率ニ無數之眷屬ヲ一

破リ玉ヒニ四魔ノ之羣黨ヲ一。女天ハ擊ニ百寶ノ之

花臺ニ迎ヘ玉フニ九品ノ之淨刹一。利ハ兼ニ現當ヲ一

益ハ被ニ眞俗ニ者ヲヤ哉。仍テ唱テ歌頌ヲ一各レ可

レ行ズニ禮拜ヲ一

我有微妙法。世間甚稀有。衆生

受持者。利益無邊際。南無大聖

(No. 19 裏・符丁「八」)

大慈大悲歡喜天王。哀愍於我

悉地圓滿。第五ニ述ベ上ルトハニ回向發願ヲ一者。

諸佛菩薩ノ之度シ玉フモニ羣類ヲ一皆ナレズノ尊ノ

之方便也リ。諸神權現ノ之化ニ衆生ヲ一

寧ロ非ズヤニ此ノ天ノ之善巧一哉。若シ欲セバ預ニ十

方諸佛ノ之利益ニ一者。須クレ供養ス此ノ尊ヲ一。

若シ欲セバ蒙上ラントニ一切諸神ノ之冥助ヲ一者。須ク

レ恭ク敬此ノ天ヲ一。雖モ致ストニ一尊一天ノ之讚

歎ヲ一。普ク増シ上ルニ諸佛諸神之威光ヲ一者ノ也リ。

冀以テニ此ノ功德ヲ一旦ツハ資ニ天長地久ノ之

御願ヲ一且ハ平ケンニ夷蠻戎狄ノ之異賊ヲ一。然ハ

則チ西都雲晴レテ鳳ノ城ノ之月無クレ傾ク。東

關塵收ツテ榆柳榮ヘ。風長靜カニメ天下安

穩。海内靜謐人民有リテ慶壽福無ラ

レ量リ

抑レ我レ等孝ニ親ニ歸スルモニ三寶ニ一有テ志無ク

レ力。行シニ衆善ヲ一救ハンモニ募貧ヲ一有テ儀無シレ遂ル。此ノ

事誰レ人カ成シレ憐ヲ此ノ念ヒ何レノ時カ得シレ休ヲ唯レ

願ハ本尊聖者施シ玉ヒニ轉貧與福ノ術ヲ一滿ニ

滅罪生善ノ之望ヲ一。是ヲ以テ爲ニ孝養父

母ノ一爲メニ奉仕師長ノ一。爲ニ興隆佛法ノ一。爲

(No. 20 表・符丁「九」)

利益衆生ノ一。專ラ仰キエラニ此ノ靈天ヲ一速ニ欲スレ成ニ

悉地ノ風ヲ一。厥預參隨喜ノ之客。入來

聽聞ノ之人。現世ニハ永ク保チニ東父西母ノ

之齡一。兼テハ得テニ鄭白陶朱ガ富ヲ一當生ニハ必ズ

任セテニ今日值遇ノ之芳契一共ニ並シテ歸シテニ心

月圓明覺位ニ一。乃至六趣四生。有

頂無間。同ク免ガレテニ火血刀ノ之苦ミヲ一亘クレ證スニ

正了緣ノ之ニ因ヲ一。仍テ唱テ歌頌ヲ一可シレ行スニ

禮拜ヲ一

願以此功德。普及於一切

我等與衆生。皆共成佛道

歡喜天咒

(オン)(キリク)(ギヤク)(ウム)(ソハ)(カ)

(オン)(ギヤク)(ギヤク)(ウム)(ソハ)(カ)

以上

歡喜天講式跋

夫大聖歡喜天者陰陽二道之根源胎金兩部之教主而大自在觀自在之所化也而世之不信者以靈天之戒德即時現悉地故或[〓]以為魔神邪道之類是緩闇梨之所以有講式之著也是篇分五段一曰本地二曰垂迹三曰誓願四曰利益五曰回向凡論述靈天之本委与利益之弘大未有如此篇之簡而悉者其有功于靈天匪淺小可謂忠直矣頃者亮觀兩[〓]士傷板葉漫滅再付諸梓以廣其伝庶幾此篇之行使有所渙釋不[〓]者之[〓]團而增長信者之渴愬乎則如杜多者亦事謂緩闇梨之孝子慈[〓]矣余固尊奉靈天者故及其刻成[〓]一言于篇末如此
文久紀元辛酉晚春台宗沙門觀性亮順撰于湯嶋心城精舍

(善歌影)

台宗 沙門
觀性 亮順

應需書台麓隱士橋定

時歲六十四 保 定

上木施主
藥師寺嘉兵衛
同 駒次郎

(題箋)

大聖觀喜天講式

大聖觀喜天講式

No. 21 22 歡喜天和讚

(No. 21 表)

歡喜天和讚
歸命頂禮大悲尊
誓はせ給ふ言の葉を
いさゝかこゝに教化して
そも天尊と申するは
随類応現まし／＼て
萬像これより生長し
男天もとは是大日の
女天は大慈くわんおんの
外には忿怒の御姿も
ゆへに衆生の苦を抜て
功德の高きは天に比し
十方周遍まし／＼て
大聖歡喜天王の
もふすもかしこきことなれど
衆生に示しまるらせん
和光利物の表示にて
陰陽二つの元ぞかし
金胎兩部の教主たり
方便身を現ずなり
聖容妙相示しつゝ
内には慈悲の御心ぞ
あまねく与樂の薩埵也
利益の厚きは地に等し
衆生を守らせ玉ふなり

福徳才智あるはまた
ねがふにまかせ垂給ふ
延命望にしたがはせ
この名号を唱れば
卑賤の身にも信じなば
其外諸芸のぞむ身は
天下に名をも揚る也
世上の運命諸ともに
納受あらざる宿望も
たとへば衆生を天尊は
救ひ給ふに似たるべし

(No. 21 裏・符丁「二」)

願ひたりとも天尊を
皆満足をなし給ふ
煩惱火宅の邪智なれば
たゞいとやすく見給ひて
仰にまかせさびたまふ
世々の帝は御修法とて
其外供養の壇をつき
悉地円満ましませり
才智東弁ねがふ人
敬礼天尊御心に
随応骨身に徹すべし
悪魔万里に退けて
七宝家宅に満ぬべし
大海江河のうれひなく
或は宿業つゞまりて

武勇敬愛其人の
降魔調伏除病等
たとへ貧しきやからにも
忽榮花のしるしあり
高貴の官に昇るべし
信に依じて随応し
それ人間の榮耀といひ
諸神を祈りたてまつり
素願達せぬことぞなき
慈父の愚子を愍みて
諸神諸仏の捨たまふ

祈れば納受まし／＼て
元より愚俗の境界は
天尊これを塵よりも
御心のまゝ福寿をも
そもかけまくもかしこも
年のはじめに修し給ふ
御祈なされたまふにぞ
出公四民をしなべて
自由自在になし給ふ
叶ひたまへばその徳の
朝夕いのるその家は
災難千里に除きつゝ
此天信ずるともがらは
禽獸悪蟲向ひ得ず
既に命葉危きに

この真言を誦持すれば
かゝる難をも除たまふ
いかでかむなしかるへきぞ
授かりてよりつねぐに
たゞおこたらず祈念せよ
闇路をたどるその時も
影身に添て守護し給ふ
たちまち其難のがるべし
神通力を施こして
隠顕こゝろにしたがひて
射る矢も其身に立まじく
心がけるばひたすらに
もしまた凌突なるものゝ

(No. 22 表・符丁「三」)

なるへき事もまたたげて
時に天尊唱ふれば
其悪人を打碎き
又は侵嬖なるものゝ
人の間をあしくなし
因たるをも遠くして
たのみまつらばたちまちに
斧鉞を持て頭上より
扱此天をねがふ時
その上品の供養とは
これを供ずる其人は
また中品の供養とは
これを捧ぐる輩は

忽其難のがるべし
まして諸願の宿望は
男女わかたず真言を
身を清くして朝夕に
たとへば夜行に燭なくて
こゝろに是を念じなば
また盗難劔なんも
或は軍陣大敵も
破敵なさしめ給ふなり
出入礙る事ぞなき
このゆへ武勇を専らと
一心ふ乱にいのるべし
とゝのふべきもうち破り

万につきて悪事する
神通力の棒をもち
願ひも調へはべるべし
たゞかりそめも詐りて
親しき中も疎ましく
終に諸難の起るとも
その怨人を睨みつけ
七ツに打わり給ふなり
供養に三ツのわかちあり
浴油供をたてまつれ
人中王となし給ふ
花水供をたてまつれ
帝の師範となし給ふ

扱また下品の供養とは
 上分とりて天尊に
 きはまりなしと説給ふ
 士農工商この天を
 夫婦の中のあしきにも
 たちまち和順し睦しく
 むらがり来りて仕ふ也
 おの／＼媚を献じつゝ
 金谷の春のあしたには
 南楼の秋の夕には
 逍遙第一このむもの
 たのしみ心に叶ひつゝ
 また懐妊の女人には
 平産心のまゝにして
 その外すべての病いたみ

(No. 2 裏・符丁「四」)

又は怨念呪咀せられ
 忽解て障りなし
 使呪法経に説給ふ
 広き恵みの功德をば
 たうとき教にもとる也
 信をおこして朝夕に
 福祿家にみち／＼て
 あな尊としやその徳を
 いさゝか功德を讃しつゝ
 我人ともに現未來
 一たひ唱ふを縁として

常に調ずるもの皆の
 供じまつらば富貴をも
 されば出公はじめとし
 供養しまつらで有べきぞ
 ひとへに此尊たのみなば
 家とへのえば奴婢までも
 紅顔玉姿の美女は又
 かたへに侍りてみちみり
 香美の花を弄び
 さやけき月に嘯きて
 唯此天を念じなば
 いさゝかうき事なかるべし
 一入此天祈念せよ
 行歩自在になし玉ふ
 願ふに本復なさしめん

悩む身とても念ずれば
 皆此文は將來の
 かかる化益の海よりも
 秘めてのべずは此尊の
 有縁の輩一心に
 唯怠らすつとめなば
 齢を龜鶴とともにせん
 演るに言葉も及ばねど
 大悲の光をあらはして
 二世の悉地を成就なし
 龍花の会場に値遇せむ

歡喜天和讃終

(題箋)

歡喜天和讃
 歡喜天和讃

No. 23 浴油供御贖

法主

浴油 供御贖 柳井堂

No. 24 歡喜天長日華水供之御贖

法主

歡喜天長日華水供之御贖 柳井堂

No. 25 華水供御贖

湯島

華水供御贖 柳井堂

No. 26 御祈禱浴油供御贖

湯嶋

御祈禱浴油供贖 柳井堂

No. 27 星供御守護

星供御守護

No. 28 御祈禱日供講御守護

柳井山

御祈禱日供講御守護
心城院

【裏面墨書】

日供

No. 29 真言

(オン) (マ) (カ) (キヤ) (口) (ニ) (キヤ) (ソワ) (カ)

No. 30 真言

(オン) (キリク) (ギヤク) (ウン) (ソワ) (カ)

No. 31 真言

(オン) (ギヤク) (ギヤク) (ウン) (ソワ) (カ)

No. 32 真言札

我有微妙法 世間甚稀有

(オン) (キリク) (ギヤク) (ウン) (ソワ) (カ)

衆生受持者 皆與願満足

【裏面墨書】

大正六年四月吉日

湯島 聖天堂

醍醐代

No. 33 立春大吉祥

(シリ) 立春大吉祥

【裏面墨書】

昭和廿八年十二月廿日 心城院

No. 34 大般若經轉讀札

歡喜天寶前

大般若經轉讀札 心城院

No. 35 奉転読大般若經六百軸福壽增長祈攸

(チクマン) 奉轉讀大般若經六百軸福壽增長祈攸

【裏面墨書】

本郷湯島 心城院

チクマン

No. 36 52 御關

(No. 36 表)

① 第一大吉

② 七寶浮圖塔しつ ほうふ とのたう【金銀しゆぎよくの七ほうをちりばめたるたからのたう

なり人ならばくらる有人なり】

③ 高峯頂上安かう ほうちやう じやうにあんす【たかきみねのうへに立たらばいよくたつとく見

ゆるぞとなり】

④ 衆人皆仰望しゆ にんみなぎやう ぼうす【しゆにんあをぎのぞみてたつとぶなり】

⑤ 莫作二等閑看なかれ なすこと とう かんのかんを【此人はなをざりには見られまいぞ大人ならばい

よく大吉なり】

①第二小吉

②月被^{つきまは}二^ふ浮^う一^つ雲翳^{うんいせ}一【月はあれどもくもにかくれてひかりが見へぬぞと
いふことなり】

③立事^{りじ}自^じ一^{おの}昏^{こん}迷^{まい}【立て見てもつい見へねばおのづからこころもくらぐ
まよふぞとなり】

④幸^{ちか}一^は乞^こ陰^{いん}一^が合^が一^の祐^{すけ}【まことをつくし時せつをまたはさいはひのたす
けありて】

⑤何^{なに}一^お慮^も不^ふ開^{ひら}一^か眉^{まゆ}【よろこびのまゆをひらくべしとなり】

①第三凶

②愁^{しゅう}一^な悩^{なや}損^{さん}二^ず忠^{ちゅう}良^{りょう}一^ま【忠義をつくしてもそのかうがあらはれぬゆへにう
れへなやむなり】

③青^{せい}一^せ霄^{せう}一^し炷^{しゅう}香^{かう}【こころざしの通じかたきをたとへば大ぞらにむかつて
香をたぐ一トたきせしほご也】

④雖^いレ^ん然^{ぜん}防^{ぼう}二^{せう}小^{せう}過^か一^を【されども少しのあやまちをふせぎて身をつし
み】

⑤閑^{かん}一^り慮^り學^{がく}一^じ時^じ長^{なが}【しづかにおもいはかりてじせつをまちたいくつすまじ
となり】

(No. 36 裏)

①第四吉

②累^{しきり}有^{あり}二^の興^{こう}一^の雲^{うん}志^し一^の【こころざしの忠義をばげみりつし
ん出世をねがふなり】

③君^{きん}一^の恩^{おん}祿^{りく}未^まレ^だ封^{ほう}【されどもちぎやうおんしやうはいまだあておこなは

れずといへどもますくはげむべし】

④若^も逢^あ二^の侯^{こう}一^の手^て印^{いん}一^の【ふと君の目にとまりてもあふなくば年来の功があら
はれ】

⑤好^{かう}一^の事^じ始^{はじめ}念^{ごころ}念^{ごころ}【いよく吉事がかさならふぞと也】

①第五凶

②家^が一^の道^{だう}未^まレ^だ能^{あた}レ^は昌^{さかん}【いへのみちはいまたさかんにはならず】

③危^き危^き保^{たも}二^の禍^{くわ}殃^{うわい}一^の【つねにわざはひたへずたぐあぶくとおもふて日
をおくる】

④暗^{あん}一^の雲^{うん}侵^{おか}二^の月^{げつ}桂^{けい}一^の【はるく月のかきくもることくものおもひのためるま
てなし】

⑤佳^か人^{じん}一^の炷^{しゅう}香^{かう}【かうをたきせいくに天道をいのるべし】

①第六末吉

②宅^{たく}一^の墓^ぼ鬼^{おに}一^の凶^{きよう}多^{おほ}【家内に物のたぐりなど有てとかくさはりが多しとな
り】

③人^{じん}一^の事^じ有^{あり}二^の交^{かう}一^の訛^{くわ}【人のうへにもりやうけんちがひの事などあるべし】

④傷^{いた}レ^な財^{ざい}損^{さん}一^の失^{しつ}防^{ぼう}【けんやくをつとめもの事にねん入そんしつをふせ
ぐへししからば苦にはなるまじと也】

⑤折^いレ^な福^{ふく}一^の始^{はじめ}中^{ちゅう}一^の和^わ【天道をいのりせいくをつくさばわざはひし
りぞき家内おだやかなるべし】

(No. 37 表)

①第七凶

- ② 登^{のつて}レ舟待^{ふねにまつ}二便^{びん}一風^{ふう} 【ふねにはのりたれどもじゆんふうがなしと也】
- ③ 月^{げつ}一色^{しき}暗^{あん}朦^{もう}朧^{ろう} 【月のひかりもくもりてもうろうとくらしとなり】
- ④ 欲^{ほつせま}下^{まじつて}碾^{きやう}二香^{きやう}一輪^{りん}去^{まいた}上^た 【くるまにのりてゆかんとすればなり】
- ⑤ 高^{かう}一山^{さん}千^{せん}萬^{まん}一里^り 【山たかふしてふねも車も行^{くる}ことかなはずと也】

① 第八大吉

- ② 勿^{なかれ}二頭^づ一中尾見^{ちゆうびみ}一 【ころざしをたかくもちていやしきわざをなすへからずとの心なり】
- ③ 文^{ぶん}一華^{くわ}須^すレ得^うレ理^り 【しからば身の才四方にあらはれ理を得べきなり】
- ④ 禾^{くわ}一刀^{たう}自^じ偶^ぐ然^{ぜん} 【禾は稻なり刀は鎌也くうせんははからずしてあふ也いふころは稻はみのり幸ひ鎌は手に有也】
- ⑤ 當^{まじ}レ遇^{あひ}二非^ひ一常^{じやう}喜^き一 【おもひのまゝの仕合にてつねになきよろこびにあふべしとなり】

① 第九大吉

- ② 有^{ゆう}一^{めい}名^す須^すレ得^うレ遇^{あひ} 【名をあげ人にしられんとおもはゞのぞみのまゝなるべし】
- ③ 三^{さん}一^{ちゆう}望^{ぼう}一^{ちゆう}期^き遷^{せん} 【三つののぞみも一とぎに叶じせつたうらひせり】
- ④ 貴^き人^{にん}來^{きたり}指^{さす}レ處^{ところ} 【ところをさすとは貴人目うへの引まはしにあづかるなり】
- ⑤ 華^{くわ}一^{くわ}菓^{くわ}應^{えい}レ時^じ鮮^{せん} 【花もこのみもときにあたつて有べしとなり】

(No. 3 裏)

① 第十大吉

- ② 舊^{きう}用^{よう}多^た成^{せい}レ破^は 【ふるくなしきたる事はやぶれあらたまるべし】
- ③ 新^{しん}更^{せい}始^し見^{けん}レ財^{ざい} 【もの事あらたまりてのちはしめてよろこびにあふべし】
- ④ 政^{せい}求^{きう}二雲^{うん}一外^{がい}望^{ぼう}一 【うんぐわいとはおよびもなきのぞみをかくるともといふことなり】
- ⑤ 枯^こ一木^{ぼく}遇^{あひ}レ春^{はる}開^{ひらく} 【かれ木のはるにあふて花のひらくやうにすへはんじやうすへしとなり】

① 第十一大吉

- ② 有^{ゆう}一^{ふく}禄^{ろく}興^{きよう}二家^か一業^{げふ}一 【福禄身にそなはりて家げふをおこしきかゆへきなり】
- ③ 文^{ぶん}一^{くわ}華^{くわ}達^{たつ}二帝^{てい}一都^と一 【その身の才芸みやこまでもかくれなし】
- ④ 雲^{うん}一^{ちゆう}中^{ちゆう}乘^{じやう}二好^{こう}一箭^{せん}一 【うんちうに矢をはなつて少しもかけきはりなく立身すべし箭は矢なり】
- ⑤ 兼^{かね}得^{てん}二貴^き一人^{にん}扶^{すけ}一 【きにんのたすけもあらんとなり】

① 第十二大吉

- ② 楊^{やう}一^{りゆう}柳^{りゆう}遇^{あひ}レ春^{はる}時^じ 【やなぎもはるにあふてみどりをふくむなり】
- ③ 殘^{ざん}一^{くわ}花^{くわ}發^{はつ}二舊^{きう}一^{しん}枝^し一 【ざんくわきうしにひらくとは十分にさきそろふたなり】
- ④ 重^{ちゆう}一^{じゆう}重^{じゆう}霜^{じゆう}一^{せつ}雪^{せつ}裡^り 【しもゆきの重々とかさなりたるうちにも】
- ⑤ 黄^{わう}一^{じゆう}金^{じゆう}一^{じゆう}色^{じゆう}更^{じゆう}一^{じゆう}輝^{けい}一 【わうごんいろをへんせすかゝやくなり】

(No. 3 表)

①第十三大吉

②手把ててらニ太たい陽やう輝かり一【たいやうは日りんのことなり手にそのひかりをとるといふは春の気をもたらずなり】

③東とう君くん發はつ三さん舊きう枝し一【東くんははるを司る神なりきうしにはつすとはふるぎ枝も木のめだち春めくさま也】

④稼か苗めう方ほう欲よくレ秀しう一【かべうはなはしろのたぐひなりまさにはひいで長せんとする次第にさりゆくてい也】

⑤猶なほ更さら上のぼニ雲うん梯た一【くもにかけはしのぼりかたき所にものぼるへしとなり】

①第十四末吉

②石せき玉ぎよ未まレ分ぶん時とき一【玉はあれどもいまだみがくされはいしとも玉ともわかたざるなり】

③憂ゆう心しん轉たう更さら悲ひ一【いかにしてまことの玉を得んとおもふに迷ひの心ありてなをくまよふ也】

④前ぜん途と通つう大だい道だう一【されどもしせつをまちたるかひありてゆくさきは大道に出べしと也】

⑤花はな發はつ應おう三さん殘ざん枝し一【いまはしせついたりてそれく花さきさかゆるなり】

①第十五凶

②年とし乖そむ亦ひて一孤こ一【としそむくとはとし老て也かずある人にもはなれひとり身となりてたよりなき也】

③久きう病びやう未まレ能のうレ蘇そ一【久しくやみつかれていまた本づくせざるなり】
④岸きし一危あや舟ふね未まレ登のぼ一【きしにもつかずたゞよふ舟のごとし】
⑤龍りゆう一臥ふし失しなニ明めい一珠しゆ一【龍のたまをうしなひては】「もいきほひもうせ」

(No. 3 裏)

①第十六吉
②欲ほつレ政まつ重し一成かまねレ望じやうす一【まつりごとを正し子そんはんじやうを得んとおもはれ】

③前途ぜんと喜よろこ亦また寧やす一【ゆくすへやすらかにしてよろこび事もあるべし】
④貴き一入にん相あひ助たす處ところ一【きにんよりめをかけたすけあるにより】

⑤祿ろく一馬ば照てう三さん前ぜん程てい一【くわんるちぎやうもわがおもふまゝになるべきなり】

①第十七凶

②怪あやし一異み防こたへニ憂うれ一惱なぶ一【いろくのあやしみありてうれひなやみをふせがんとすれば】

③人にん一宅たく見みるニ分ぶん一離り一【家内ちりぐになりてとかくに思ひあはぬ事あるべし】

④惜おしレ花な還かへ値つてレ雨あめ一【手にもちたるものもとりおとすかごとく思ふ事もたがふなり】

⑤杯はい一酒しゆ惹ひく三さん閑かん一非ひ一【せんかたなく酒などのみてうれひをわすれんとするばかり也】

①第十八吉

- ② 離レ暗出レ明時はなれあんせいのめいじ【くもつたさらもはれわたりて月のいづるごとくなり】
- ③ 麻衣変ニ緑一衣まへんすりよくえい【あさのころもはへんじてみどりのころもとなるべし】
- ④ 旧一憂終一是退きゅういゆうひにこれしりぞく【久しきうれひもしだいにしりぞぎ今は心やすらかなり】
- ⑤ 遇レ禄應ニ交輝あひてるくまにかうき【ざいほうるせいもましてあたりにかくやく気しきなり】

(No. 3 表)

- ① 第十九末小吉
- ② 家一道生ニ荆棘かだうしやうすけいせき【家道は我いとなみ也それにいはらのもすそにかゝることくさはり出来也されどもいはらは無心のものなれば此方よりよければさなりなし】
- ③ 兒一孫防ニ虎一威じそんぼうこゐ【こらは猛威をふるふあく獣也そのごとくにいせいつよき人を恐れわざはひをまぬがれんとする也】
- ④ 香一前祈ニ福一厚かうぜんいのほふく【あつくつゝしみてつねに信をいたし天道をあがめさいはひをいのらば】
- ⑤ 方得レ免ニ分一離まさたえんまぬがるとぶんり【信力にて家内はなれくゝとなることをまぬがるべし】

① 第二十吉

- ② 月一出漸分一明つきいでちやうぶんめい【此句はそろくゝとあかりへ出るてい也諸事すゝむ所あるにたとふ月出てあきらかなりといへとも夜の道なれば星のごとく

ならずなをつゝしみあるべき也】

- ③ 家一財毎一每榮かざいまいまいさかふ【此句は望事あるをたとふ前の句に云夜道をたとることくつゝしみふかく用心していかにも此望をたつせんとすゝみ行ば道中ぶなんに望をたつすといふ】
- ④ 何一言先有レ満なんぞいほんまうありみつる【此句は前の二句の意をうけていふ月のあかき足もとのけかもなく少しの利を得て早心おこりて夜道なる事をわすれゆだんせばあやふからんと也】
- ⑤ 更一變立三功一名さらへんてたうこうめい【此句は前の三句をむすびていふ前にいふことくつゝしみてふかくしてぜんくゝにすゝみ行はつひに夜も明はなれて白昼とへんじて大きに功を立んと也】

① 第二十一吉

- ② 洗一出経レ年否あひいでたてあやとしをいなる【あらひいたすといふは何事にも前のあしきことをあらためかゆるなり年をふるとは其功をつむ也】
- ③ 光一華得ニ再一清くわうくわたりふたひきよまつとを【くわうくわはてりかくやく事也ふたゝびきよきはあらひ出したるごうのあらはるをいふ也】
- ④ 所一求終吉一利ところもとむついにきちり【ねがひもとむる事みなく吉事にならふぞとなり前の功によるがゆゑ也】
- ⑤ 重一日照ニ前程一ちやうじつてしやうぜんていせ【日をかさぬるにしたがつて行ききてりかくちやちやうすよくなるべしぜんていは行末の事也】

(No. 3 裏)

① 第二十二吉

- ② 漸一漸濃一雲散ぜんぜんちゆうちゆううんさん【ちようちゆうんとはあつきくもなりぜんくゝにあつき

くものちりはるゝなり】

③看一 看月再 明 【くもりしそらはれわたり月のひかり一天にかゝ

やくを見るべし】

④逢一 春花一 草秀 【冬がれし木も春にあへは芽をいだし花さきくさ葉も

さかへひいづる也】

⑤雨一 過竹一 重青 【竹はつねに青けれども雨ふれはますく色ふかく

なるなり雨はめぐみうるほはずをいふ】

①第二十三吉

②紅一 雲随一 歩起 【こううんはめでたきずるさう也ほにしたかつて起

るとはすゝむにしたかひよきてがゝりあるへし】

③一 箭中一 青一 霄一 【一せんは我一心なり是を箭にたとへたりせいせう

にあたるとはりつしん出世の望成就する也】

④鹿行一 千里遠一 【鹿はしか也是をいとめんと思へ共千里の遠きに行

たらばいられまじき也又鹿音祿に同じ是は祿をむさぼりてやまぬを千里

の遠きにたとふ】

⑤争一 知一 去一 路一 遥一 【前にいふ足ことを知らず及ぬ望に深入して後

悔する事をいかでしらんといましめたる詞也】

①第二十四凶

②三一 女莫一 三相一 逢一 【三女は姦の字也かたまし共かしましともよむあ

ひあふことなかれとはさけしりぞけよと也】

③盟一 言一 說一 未一 通一 【めいごんとはちかひ也我ちかひを立誠にあらはせ

とも姦人中をへたてゝつうぜぬ也】

④門一 裏心一 肝掛 【とは悶の字也もだゆるとよむ我こゝろの先へつうぜぬ

事をもだへくるしむ也】

⑤縞一 素一 子重一 重 【とは絹にていくゑもつゝみたるかたち也是も思ひの

つうじかたきにたとふ心長く誠を尽て終に通入】

(No. 4 表)

①第二十五吉

②枯一 木遇一 春生 【かれ木もはるにあふてふたゝび芽をいだしなり】

③前一 途一 必一 利一 亨 【ぜんどはゆくさき利かうはしあはせよきをいふなり】

④亦得一 二佳一 人箭一 【そのうへよき人のめぐみをえて】

⑤乘一 車一 祿一 自一 行 【ざいほうをくるまにつみてゆくべしとなり】

①第二十六吉

②将一 軍有一 二異一 聲一 【いせいありとは此人名将の聞ありて四方にかくれな

きをいふ也】

③進一 兵一 萬一 里程 【つはものを遠き国につかはしてきをうたしむる也

これは万の望事にあてゝ見るべし】

④争一 知一 臨一 三敵一 處一 【てきにむかふてかけ引は大将の下知しだい也か

ちまけはいかでかしらんいまだわからぬ也争知の字眼をつくべし】

⑤道一 勝一 却一 二虚名一 【きよめいをしりぞくとはほまれをあらはず也又

かへつて名をむなくすとよむ時は道すくれて理を持たなから非におつる

也大将のこゝろへ大事也】

①第二十七吉

② 望^{のぞ}レ^た 禄^{ろく} 應^{おほ}ニ^た 重^{ちゆう} 山^{さん} 一 【禄を望は山をかさねたるごとく満たり又重山は出の字となれば他国にいてかせきて見よ】

③ 花^{はな} 一 紅^{くわい} 喜^き 悦^{えつ} 顔^{がん} 【花もよろこびのかんばせをひろくとは春陽のめぐみをへて時めくさまなり】

④ 舉^あレ^げ 頭^{かう} 看^くニ^み 皎^{かう} 一 月^{げつ} 一 【此時にあたつてかうべをあげてあきらかなる月を見よ】

⑤ 漸^{せん} 出^{しゆ}ニ^い 黒^{くわく} 一 雲^{うん} 間^{かん} 【ぜんくく^くに黒くもの中をはなれてひかりかやくとなり】

(No. 4 裏)

① 第二十八凶

② 意^い 一 速^{じゆ} 無^むニ^い 船^{ふね} 一 渡^{わた} 一 【物事急にせんところをいそげどもたよりを得ざるたとへなり】

③ 波^{なみ} 一 深^{ふか} 必^{かなら} 誤^まレ^る 身^み 【しるて事をおこさはわさはひを引出しかへつて身をうしなふべし】

④ 切^{しき} 須^すレ^る 回^{かへ}ニ^り 舊^{きゆう} 一 路^ろ 一 【いそぎもとのみちへかへるべし】

⑤ 方^ま 可^たレ^る 逸^いニ^は 災^{さい} 一 巡^{じゆん} 一 【もとにかへらばわざはひをのがるへししからざれば大きにあやふし】

① 第二十九吉

② 憂^{ゆう} 一 轉^{かん} 漸^{ぜん} 消^{しゆ} 一 融^{ゆう} 【としつきつもるころのうれひもやうく^くにきえうせて】

③ 求^{もと}レ^る 名^な 得^たニ^ら 再^{また} 一 通^{とお} 一 【身を立名をしられんと思ふころろざしのつうずるなり】

④ 寶^{ほう} 一 財^{さい} 臨^{りん}ニ^り 禄^{ろく} 一 位^ゐ 一 【ざいほうはいふにおよばすさまじうく^くらゐをものぞまば奉公すべし】

⑤ 當^{あた}レ^る 遇^あニ^は 主^{しゆ} 一 人^{じん} 公^{こう} 一 【よきしゆ人にあふてとりたてらるへしと也】

① 第三十半吉

② 仙^{せん} 一 鶴^{くわく} 立^たニ^り 高^{かう} 一 枝^し 一 【高きえだにつるの立たる也是はよろこび事の目にみへて手にとられぬたとへなり】

③ 防^ふレ^る 他^た 暗^{あん} 一 箭^{せん} 虧^か 【此つるを他人のとらん事をおそれ守りふせがんとして弓はあれども箭はなしとなり是は目前に吉事あれども手に取るてたてなきを書】

④ 井^{せい} 一 畔^{はん} 剛^{かう} 一 刀^{たう} 利^り 【此句の心は井はおち入かたち也うしろにかたきあり前にはおとしあなありしんたいきはまりていかんともしかたなきていなり】

⑤ 戸^こ 一 内^{ない} 更^{さら} 防^ふレ^る 危^{あや} 一 危^{あや} 【このみならず其うへ家内にあやふき事有り外を捨て内をふせげと也是は目にみへたる利有ともそれをば見切て内の用心をよくせよとなり】

(No. 1 表)

① 第卅一末吉

② 鯢^{こん} 一 鯨^{げい} 未^いレ^る 變^{へん} 時^じ 【こんけいといは大魚なり化して龍となるへんせさるとはいまた時のいたらぬ也】

③ 且^{かつ} 守^{まも}ニ^り 碧^{へき} 一 潭^{たん} 淇^き 一 【あをきふち口身をひそめて時いたるをまつへし此時わるくすれば人にとらるなり】

④ 風^{ふう} 一 雲^{うん} 興^{こう}ニ^り 巨^こ 一 浪^{らう} 一 【ついに龍とへんして天上の時いたり風雲おほなみをおこし一いきに天地を過】

⑤一息過三天一涯一【一息に天地をかけるなり此時のいきほひにはあへててきするものなし】

①第三十二吉

②似三玉藏ニ深一石一【玉はあれどもふかく石につままれてあらはれぬ也】

③休下将ニ故一眼一看上【されとも此玉を見んと思はゞつねのまなこをもつて見る事をやめよとなり】

④一朝良匠別【あるときふとよき玉工にあふて此石の中に玉のつまれある事をわかつ也】

⑤方見寶一光一寒一【此玉工の手にかけてみかきあげたらばはしめて玉のひかりをみるとなり】

①第三十三吉

②枯一木逢一春一艶一【冬がれて木も春にあふてみとりをふくむなり】

③芳一菲一再一発一林一【にほひもみちてふたゝひはやしにかんばしきなり】

④雲一問方見一見一【そのうへくものはれまには月のひかりもあらはるゝなり】

⑤前遇ニ貴一人一欽一【きにんのよろこひにあふべきなり】

(No. 4 裏)

①第三十四吉

②臘一木春一將一將一至一【らふほくは冬木のこと也はるいたればふたゝひ木

の芽もさかふるなり】

③芳一菲一喜一再一喜一【はうひは草木もえ出てかんはしきかたちをいふなり】

④鯤一鯨一興一三巨一浪一【こんけいは大魚もおほなみをおこすはこんけい化して龍となればなり】

⑤舉一鉤一釣一緑一為一眞一【冬木は春にあひこんけいは龍にへんすることく人もりつしんする也鉤は万望事を喩也】

①第三十五吉

②財一鹿一須一乘一乘一箭一【しかを射とむるは箭によるへし禄をもとむるはせんを行ふにしかじと也鹿音禄箭音善に通ず】

③胡一僧一引一引一路一歸一【天竺より唐へわたり来る僧を唐にては故僧といふ也こゝにてはすへて徳ある人と見るへし】

④遇一遇一道一同一仙一籍一【かの徳有人にしたかひ道をまなび其徳行の師と同しくなるを仙せきをおなしうすといふ也】

⑤光一華一映一映一晚一暉一【光花はひかる也ばんきとは夕日かけ也此こゝろはかの徳あらはれてかゝやくなりしゆ行の功つもりて後なるかゆへに夕日かけにたとへたり】

①第卅六末吉

②先一損一損一後一有一益一【はじめあしくとも後にはよきことあるべし】

③如一月之剥一剥一蝕一【月しよくのはじめかけたる所あるかしだひにおわりて後元の満月になるかことし】

④玉一兔一待一待一重一重一【きよくとは月の異名なり玉せいとはまん月に

なるをいふなり】

⑤ 光一華當レ満レ屋 【ふたゝひまん月となりてひかりかゝやきいへにみつゝしと也おくとは家の事なり】

(No. 2 表)

① 第卅七半吉

② 陰一變未レ能レ通 【いんあいとはくもりふさがりたる空をいふなり

くもきりにて四方東西をわきまへざる也】

③ 求レ名亦未レ逢 【出世をねがひ我名をあらはさんとすれともいんあい

にてふさがりたることく思ふやうにならず】

④ 幸一然 須レ有レ變 【今までは思ふやうにならさりしがじせつき

たりてさいはひに物のへんずることありてなり】

⑤ 一箭中ニ雙一鴻 【矢一すぢにてふたつの鴈を一度に取がごときの仕

合あり鴻は大鴈をいふなり】

① 第卅八半吉

② 月一照 天書静 【此こゝろは一天に雲もなくはれたる空のけしき也天

書といふは天文といふに同じ】

③ 雲一生 霧彩レ霞 【はれたる空にくもを生しそのうへきりかすみまで

立くらむ也これは何の思ひもなき所にうれひの生することをたとへてい

ふなり】

④ 久 想離庭客 【我おもふ人にもわかれはなるゝ程の事もいできたる

へつ】

⑤ 無事惹ニ咨一嗟 【さしたる事なき時にも何となくものかなしくなげき

あるをいふなり】

① 第三十九凶

② 望一用方心一腹 【望事あつて我しんふくの人をかたらひ用也しんふくの

人とは無二のみかたをいふなり】

③ 家一郷被ニ火一災 【内より火を出すといふことなりかのしんふくとた

のみたる人こゝろがはりのていなり】

④ 憂一危三一五度 【わざはひ内よりおこりてあやふきことたびゝあるべ

し】

⑤ 由レ損ニ斷頭一財 【其うへくびを切らるゝか又かしら役などを取あけ

らるゝ事あるべしとなり】

(No. 2 裏)

① 第四十末小吉

② 中一正方 成レ道 【中正とは何れへもかたよらず正しきをいふかくの

ことくなれば物事道にかなひ無事なり】

③ 姦一邪 恐 惹レ 愆 【かんしやとは悪人なり身にたとはゞ中正と無事

なる所に邪氣の人ごとくふと悪人にそゝのかさるゝ也】

④ 壺一中盛ニ妙一薬 【されともこゝに一つの妙薬あり是は人々本来具足

したる本心良智にたとふ又よき人のいけんにあう事にもたとへたりこゝ

においてあやまちを改め本心に立かへる也】

⑤ 非レ久 去ニ煩一煎 【本心良智の妙薬を用ゐる邪氣しりそき煩煎とは

わつらはしき事さりて元の無病中出の人と成煎とはわつらひはけしくい

りつくごときをいふなり】

①第四十一末吉

②有レ物不ニ周旋一【我ものゝありなからおりふやうにやくにたゝぬな
り】

③須レ防レ損ニ半一邊一【急にはやくにたゝぬのみならず半分もへ
りさふなり貸附の古証文に似たる意】

④家一郷烟一火裏【家内煙にまかれたることくいふせく思ふ事しきり也】

⑤折レ福始安一然【信をこらしていのりたらはやうくけふりの中
をのかれてはしめてあんどすへしとなり】

①第四十二吉

②桂一華春将一 到【けいくわは月のいみやう也月をみればおほろにか
すみて春のけしきをもよほすなり春は万物発生の時なれば万事はしむる
によし】

③雲一天好一 進レ程【雲天は前記たとへなり又遠くはるかなる事をもい
ふ程を進むとはたび立なり是は前記ことを望むにも遠くたび立するにも
よしといふことなり】

④貴一人相一 遇處【しからはよぎ仕合にあひ貴人に取立られて望事成就す
るへし】

⑤暗月再分一 明【おほろの空はれて月のふたゝひあきらかなることく
にりつしんすへし】

(No. 3
4 表)

①第四十三吉

②月一桂将一 相一 満一【月桂とは月のひかりをいふなりあひみたんとす
といふはやかてまん月にならんとする】

③追レ鹿映一 山一 溪一【鹿をおふとは願望あるをたとへていふさんけい
にえいすとは目にみへていまた取得ぬなり】

④貴一人乘一 遠一 箭一【此こゝろは彼しかを遠箭に射取かことく貴人よ
り引立にあつかるなり】

⑤好一事始相一 齊一【よきことのこれよりはじまりてよかるへし我てから
にてとれぬを貴人より取て給る也】

①第四十四吉

②盤一 中黒一 白一 子【黑白子とははんちうに打ちらしたるこいし也これは
何にてさも事あるにいまた善悪吉凶つれともわからぬ事にたとへたり】

③一 著要一 先 機【扱此碁のかちまけは打人のきてんのきくとき
かぬにあり是は人の後世などにたとへて我一に利を得んことをはかるな
り】

④天一 龍 降一 甘一 澤一【天龍かんろの水をくたし凡夫の碁立をあらひ
すゝぎて神仙の碁立にかゆるなり是は天のめぐみをうけて今まで悪かり
し事へんして吉と成を云】

⑤洗一 出 舊一 根一 碁【きうこんの碁とは凡夫のうつごなり仙人はこをう
つて寿命をのべ凡夫は碁をうつて気をつくし寿命をちゝむ此たかひある
事みつへし】

①第四十五吉

②有レ意興一 高一 顯一【かうけんをおこすとはかうみやうはまれをあら

はさんと思ふころあつてなり【】

③ 禄馬引二前程一【ろくはとはちぎやうとりの事なりぜんていにひくとはゆくさきくにあらんと也】

④ 得遇二雲中煎一【うん中のせんとは公家高位のかたより引立にあつかることありてなり】

⑤ 芝蘭満路生【しらんは香艸也ゆくさきいちめんにしやうじてかんはらし前の高名ほまれのあらはるゝ也】

(No. 3 裏)

① 第四十六凶

② 雷發震レ天昏【いかづちなりそらかきくもりてくらきなりせけんのははかしきていをいふ又天のいかり也】

③ 佳人獨掩レ門【かじんはよき人なりひとり門をほふはせけんのまじはりをせずいんしやなどのていなり】

④ 交加文書上【あけくれ書をよみてとくをかくしひとりつゝしみるる也又書物に付て出入あるへし共】

⑤ 無事也遭レ存【るんじやとなつて引こみるたりしゆへいかづちにも打れず無事に過たり】

① 第四十七吉

② 更望身前立【万ねかひのそむことありて身のまへに来らん事をもとむるなり】

③ 何一期在二晩一成一【なんぞこせんとは思ひのほかなることはんせいとはおそくしやうしゆすることなり】

④ 若過二重山一去【山をかさねは出といふ字也故にたひ他国する意又

山の重りたるはかんなんくらうあるのかたち也此かんなんをこらへしひてすぎさらはといふころ也】

⑤ 財禄自相一迎【さいほうはあなたよりもちむかへ仕合ころのまゝになるへきなり】

① 第四十八小吉

② 見レ禄隔二前溪一【たからを見てとらんとおもへどもまへにたにがありて前にゆかれぬなり】

③ 勞レ心休二更一迷一【おもふやうにならぬとて心をいためずしばらくしせつのはたまをまちてよし】

④ 一朝遭二好一渡一【しせついたればよきわたりにあふてまへなる谷をこへてたからのある所にいたるへし】

⑤ 鸞鳳入レ雲飛【ほうわうのくもに羽をのすことくしぎいを得てよろこひたのしむべし】

(No. 4 表)

① 第四十九吉

② 正一好中秋月【中秋は八月十五日名月のことなりこよひの月はことによくさへてあからかなり】

③ 蟾一蝮蛟一潔間【せんちよとは月の異名なりかうけつとはすこしのくもりにて見へぬなり】

④ 暗一雲知二甚處一【あんうんは黒くもなりいづれのところをしらんとはいづつ方方を見ても雲のけしきはみへぬ也】

⑤故^こ故^こ 両^{りやう}相^{さう}攀^{はん}【ふたつなからとは俗ならば文武二道家は仏法世法ともふたつなから得べしとなり】

①第五十吉

②有^い達^{たつ}宜^{よし} 更^か變^{へん}【のぞむことあらは今までのしほうをあらためかへる歎またはたしよへ行てよし】

③重^{ちゆう}山^{さん}利^り政^{せい}逢^{あひ}【山をかさぬれは出の字也他所に出て利を得る又山の重りたるはくらう有のかたち也くらうをいとほすしてかせけは利を得へしとなり】

④前^{ぜん}途^と相^{さう}偶^ぐ合^{がふ}【行ききくまで仕あはせにあふへし行すへのことにも通すへきなり】

⑤財^{さい}禄^{りく}保^ぼ 三^{さん}享^{かう}通^{つう}【ざいほうも心のまゝに成べしかうつうとはうけつうずるとよむなり】

①第五十一吉

②修^{しゆ}進^{しん}甚^{しん} 功^{こう}奇^き【しゆしんはしゆぎやうと同じたとへば家を立んとおもひて石ずへ木ごしらへする意なり】

③勞^{らう}生^{せい}未^み得^{とく} 時^{とき}【せいをらうすとは前にいふしゆ行の功きどくにせいをたしくらうすれどもいまた時来らぬなり】

④騰^{あつ}身^み遊^{ゆう} 碧^{へき}漢^{かん}【へきかんは大空のこと也やうくしゆ行の功つもりてみをあげて大空に遊ふやうに成たり】

⑤方^ま得^た 遇^{あひ} 三^{さん}高^{かう}枝^し【かうしにあふとはよき居所あるひは所領何にても身のおちつき所を得べしと也】

(No. 4 裏)

①第五十二凶

②有^あレ 須^あ 須^あ 惹^ひ 訟^つ 訟^た【うつたへはさうろんあるひは目うへの氣にさうひあらそひあるをいふなり】

③兼^か有^あレ 事^じ交^{かう} 加^か【交加をうてくはへてとよむ俗に一さいおこれは二さいおこるといふ事なり】

④門^{もん} 裏^{りに}防^{ぶせき} 三^{さん}人^{じん} 厄^{やく}【わかうちはよりたすくることありてとかくせけんへいださぬやうに慎て時を待へし】

⑤災^{さい} 臨^{りん} 莫^た 嘆^{たん} 嗟^さ【わざはひありてもなげくことなかれやかてたすくるものか出来てのちは安心すべしと也】

①第五十三吉

②久^{きう} 困^{こん} 漸^{ぜん} 能^{よく} 安^{やす}【久しくくらうせしかともやうくと万事安しんするやうになるへしとなり】

③雲^{うん} 書^{しよ} 降^{かう} 三^{さん} 印^{いん} 権^{けん}【雲書は貴人より給ふ所の御墨付をいふ知行の下し文又感状のたくひなり】

④残^{ざん} 花^{くわ} 終^{ついに} 結^{むす} 實^み【花は咲ともあた花にてやうく残花になりて実をむすふとは前の久困のことをたとへいふ也】

⑤時^じ 亨^{かう} 禄^{りく} 自^じ 遷^{うつ}【年中四季のうつりゆくことくに知行さいほうも我身の上にくくり来てたのしきてい也】

①第五十四凶

②身^み 同^{おな} 意^い 不^な 同^{おな}【ごころおなしからずとはつねにしあんのだだまらぬをいふまた家内不和合のかたち也】

③ 月一蝕暗ニ長空一【長空は大空をいふ月のしよくして空のくらくな

ることく人の身の上にもさはりあるをいふ】

④ 輪雖ニ常在車【りんは車のわをいふ輪はつねにめぐるものなりい

ふころはわの廻るかことくよきこともまはりくる道はわが手にありといへともといふころなり】

⑤ 魚一水未ニ相逢一【魚の水をもとむれどもいまだあはざるることく人も

たよりをうしなふかたち也是まへのわは手にありてひつぢやうしてよき事にあふべきたりも未時至らす】

(No. 45 表)

① 第五十五吉

② 雲一散月重 明【くもはれて月ふたゝびあきらかなるていなり人のうへにはゞ心にかゝる事なくはれやか也】

③ 天一書得ニ誌誠一【てんしよは月星のあきらかに書たることきをいふし

せいとは心のまことをあらはしえたるをいふ】

④ 雖ニ然 多ニ阻一滞一【そたいとは物にへだてあはりあるをいふされども心の誠あればさはりも苦になるまじと也】

⑤ 花一發 再 重一榮一【はなひらいてまたあはちやう心まことありてあきらかなるゆへに心の花ひらけてふたゝびさかゆるていなり】

① 第五十六末小吉

② 生一涯 喜 復憂一【しやうがいよひてまたうれしか二期のあいたよろこひにあふるとすればまたうれ

ひことありてよろこびとうれひとはんぶん也】

③ 未レ老先白頭【こゝろもよらぬにしらがとなること心くらう多き印しな

り】

④ 勞レ心千一百度【こゝろせんひやくど千百度といふはくらうの数かぎりなきをいふな

り千百度にはかきらぬなり】

⑤ 方レ遇ニ貴人 留一【またたききんのとめにあふてのち目うへの人に引たてられやうく

あんしんするやうに成べしと也】

① 第五十七吉

② 欲レ渡ニ長一江 闊一【ほつすれどもわたらんとながき江をわたらんとおもふ也これは世

わたりのたやすからぬことをたとへたり】

③ 波一 未ニ自一儻一【なみふかうして中々ひとりわたらぬ也い

かゞしてわたらんとあんじゐる也】

④ 前津逢ニ浪 靜一【せんしんあふなみのしづかなるにせんしん浪しつかとはやうくわたりせを見つ

けこゝよりわたらんと思ふなりこれは四十すぎてとせいの手がゝりを思

ひつきたるにたとへたり】

⑤ 重 整ニ鉤一鰲 釣一【かさねてのふつるがせうじゆはつるがうとは大魚なり此大魚をつるつりばりはそ

れさうおうに大き也これはとせいのことにつきていろくとしてたてをし

て大なる宝をもとむること也】

(No. 45 裏)

① 第五十八凶

② 有ニ径江一海 隔一【ありみちにながかいのへだてみちをゆくにうみかはのへだて有てじゆうに行れ

ぬなり是は世わたりのさはりあるにたとふ】

③ 車一行峻一嶺 危一【しやかうしゆんれいあやふし此句はけはしき坂道へ車をやること也是も人の世を

わたりかねたることにたとへたり】

- ④亦防ニ多進一退一【すゝむこともしりぞくこともならぬやうに成べし
 ずい分此さいなんをのかるやうにすべし】
 ⑤猶恐ニ小人 虧一【弟子子供あるひは下人などのかくることあるべ
 しとかくするびのかたちなり】

①第五十九凶

- ②去一住心無一定【きよぢうの二字はさりとゝまるとよむ此句の心は行
 ふともとゞまらふとも心のさだまらぬなり】
 ③行一藏亦未一寧【かうざうといふは我なすべき手わざをいふ也心か定
 らぬゆへもの事手につかぬなり】
 ④一輪清皎一潔【一りんは月のことなり月のきよくすめるがごとく心
 もすゞやかならんとすれともなり】
 ⑤却被ニ黒雲暝一【かへつていろくのせわことかさなりさいなんに
 あひて心のうきくもることを月のくるくもにおほひくらまさるゝにたと
 へたり】

①第六十小吉

- ②高危安可一涉【かうきやすへしわたる
 と也これは人の身のうへにあやふきことにあひてもさいはひにしてふな
 んなり】

- ③平坦是延年【平坦は平地なり延年は長久なり是はあやふき所も安く
 まぬかるへけれどもねかわくは平地を行て長久をはつれよとなり下の句
 と見合べし】

- ④守一得当一逢一泰【道は仁義五常の道也道にしたがふものは安く道

にたがふものはあやふしこれを前の句にたとへてかうきとへいたんとは
 いふなり】
 ⑤風雲不三遇然一【風雲は天より下す雨露のめくみなりくうせんはまく
 れあたり也此ころは天より下すめくみはまくれあたりにてはなく善あ
 くのむくいによる也】

(No. 6 表)

- ①第六十一半吉
 ②舊一何日解【きうけんはふるきあやまちをいふいづれの日かとけ
 んとはいつか此あやまちをいひ開んとなり】
 ③戸一内保一嬋婚一【せんけんとは美人のかたち也此心は我もとより内
 によき心をあれども少しのあやまりにかくれて人にしられぬをたとへて
 美人戸の内にあるといふ也】
 ④要一逢一二十一一口一【いふこと】十一口すなわち吉の字なり吉事にあはんこと
 をもとめばといふ事なり】
 ⑤遇一鼠過一牛邊一【子の日にあふて丑のかたの辺へ行たらば吉事ある
 べしといふことなり或年月時共見るべし】

①第六十二大吉

- ②災轉時一退一【さいかんじしにひりかへる
 ろくしりぞぎ思ふこと叶ふべし】

- ③名一顯一四一方揚【その名四方に高く聞へてほまれあるべし】

- ④政一故重一乘一祿【奉行頭人ともなりてよくまつりごとをおさめ
 おひくりにちぎやうのかぞうあるべし】

⑤ 昇のぼりて 高福たかきでちかおのつかもかん世 自昌みか 昌みか 【高きくらゐにのほり福ろくおのづからさかん也
いかさま富貴はんじやうのていなり】

① 第六十三 凶

② 何なん 故ゆゑ 生なま 二 荆棘けいぎよく 一 【けいきよくはいばらのことにて物の邪よこしまははりをなすもの也横あひよりさまたげをなすにたとふ】

③ 佳か 人意じんい 渐しん 踈そ 【かじんとは我家内にて大せつの人なり其人のゆだんよりしてけいきよくを生ずる也又人のざんげんにあひてめうへしたしき人と中たがふことあるべし】

④ 久きう 困こん 重輪じゆうりん 下くだ 【久しくくろうするうへにまたこゝろづかひのことがかさなりきたるべし】

⑤ 黄わう 金未こんまい 出いで 渠みせ 【金銀さいほうもほりみぞの中にうづもれてあるかごとく我まことの心もいまだあらはれぬ也】

(No. 6 裏)

① 第六十四 凶

② 安あん 居且いしよ 慮りよ 危あやまき 【人目には安らかに見ゆれども内心にはつねに苦がたへぬなり末の二句かんがへ見るべし】

③ 情じやう 深しん 主しゆ 二 別べつ 離り 一 【なさけふかうしてしたしみたる人にもわかれはなるべしことあるべしとなり】

④ 風かぜ 飄ひう 波浪急はうらうせき 【なみかぜきふにあらしおこるなりこれは不慮のさいなんにあふことをたとへたり】

⑤ 鴛鴦各おんちやうかく 自飛じひ 【をしどりは何事にもつがひのはなれぬ鳥也それさへはなれてとぶはよくのことなり】

① 第六十五 末吉

② 苦くる 病兼防やまひにかへてふせ 辱はぢ 【やまひにくるしむうへにまだはぢをうくる事有べしとなりかねてとはさしませていふ也】

③ 乘しよう 危あやまき 亦未また 穌そ 【あやふきにのぞんでいまたその場ばをのかれざるをいふなり穌はよみかへるとよむなり】

④ 若見もしみ 二 陽後やうご 一 【十一月を一陽来福といふこの時よりのち春にもならばといふことなり】

⑤ 方可また 作なす 二 良圖りやうと 一 【りやうとはよきはかりことよむ春にもならばよきしあんもあるべしとなり】

① 第六十六 凶

② 水みづ 滯とほ 少すくなく 波濤はたう 一 【はたうはなみ也なみは水のはたらきなり水とゞこほりてはたらかざればくさり水となる也】

③ 飛ひ 鴻落こうらく 二 羽毛うまう 一 【ひこうは鷹のとぶをいふ鳥の羽をおとしたらばいかんともすべきやうなし此二句人の上にとへて世わたりのてたてをうしなふを云】

④ 重かま 憂うれ 心緒亂しんしよ 一 【しんしよとはこゝろ根のこと也うれひによりてこゝろみたればうぜんとするなり】

⑤ 閑かん 事惹じひく 二 風騷ふうさう 一 【うれひしづみたる所よりして心みだれかへつてさはぎを引出さんとなり】

(No. 7 表)

① 第六十七 凶

② 枯木未生枝【かれ木となりて枝葉も生せぬなりされともいまたといふときは一向にかれ切もせぬかたちなり】

③ 獨歩上雲岐【ひとりあゆみて雲路にのぼらんとするさま也これはおよばぬことをねがひむさぶるにたとふ】

④ 豈知身未穩【前にいふおよばぬことをねがひみづから心をくしめ何として身のおたやかならざるをしらんと也】

⑤ 獨自惹三閑非【ひとり徒然としてゐてはよからぬことをたくみ出すこと多かるべし】

① 第六十八吉

② 異夢生三英傑【千万人にすくれたる人を得ると夢に見たるなりこれは何ことにもあれ吉事を目に見たれどもいまだ手にとらぬたとへなり】

③ 前來事可疑【これほどの吉事を目に見ながら我ものにならぬはいかなる事ぞとうたがひあるべしこれはいまだじせつ至らざるゆへなり】

④ 芳菲春日暖【はうひとは春のけしきをいふ也これは春のゆるやかなるごとくに次第に吉事にむかふじせつたうらひのたとへなり】

⑤ 依舊發三殘枝【此句のころは此身は前に同じけれども今はかくよろこびにあふ事をたとへば老木のかれ残るえだにはなさくこと前々に同じといふ心也】

① 第六十九凶

② 名月暗雲浮【月に雲のかゝりてくらくなるごとく人の身にも思ひよらざるさいなん来りて心もくらくなるべしと也】

③ 花紅一半枯【花はくれなぬにして見事なれども半ぶんかれたりこれも人のうへに善悪まじり来るをいふ也】

④ 惹事傷心處【するほどのことがよからぬ何につけてもころをいたむばかりなり】

⑤ 行舟莫三遠圖【舟をやるとは世わたりのことなりとをくはかる事なかれとは大がりの望せばあやふから】

(No. 7 裏)

① 第七十凶

② 雷發三庭前艸【らいは百里をおどろかすといふて大なるわざはひにたとふていぜんのかさは家内の下人などをいふわざはひは下からといふ】

③ 炎火向天飛【ほのほ天にむかつてとぶとは下上にかきあらしふかたちをいふ也かくのごとく上下不和にしてわざはひのおこりて世間にかくれなきてい也】

④ 一心來趕祿【少しの心得ちがひよりしてかく大さうのことになりわがろくにもかゝはるほかに成たり】

⑤ 爭一奈掩三扉【此時におよんでとほそをおほひふせがんとするともおよばずいかなともしかたなし】

① 第七十一凶

② 道業未成時【道をまなびことをはじめんとすれどもいまだ時せつすらずじやうじゆせざるなり】

③ 何期 兩不直【何ぞごせんとは思案の外なりかくふたつなが

らわるからんとは思ひの外といふことなり】

④事こと一 煩わづらはし心緒亂しんしよなだる 【何をしてもよからぬゆへにばうぜんと心がみだるゝ也】

⑤ 翻作かへつたず二徘徊はいくわいの思おもひ一

【はいくわいの思ひとはとかく心か定まらずうろく〜とすることなり】

①第七十二吉

②戸こ一内防ないふせく二重厄ちゆうやく一 【我家の内よりおもきさいなんがおこることあるべしよくつゝしみふせけよと也】

③花菓見くわい三分枝ふんぶんし一

【このみは花のすいに出来るものなるに花とみと枝を分てみるとは家内親族不和合の形也】

④敵げん一霜纒さうわづかきまてのぢ過後くわい 【きびしき霜は草木をからすもの也是は悪事さいなんをたとへていふ也わづかにすぎて後といふは此なんをやう〜のがれ春をむかふるごとしと也】

⑤方可まかにへし二始相はじめてあひ一宜よろし一

【春のやうきをうけて是よりそろ〜よろしき事】

(No. 8 表)

①第七十三吉

②久暗きうあん漸分ぜんぶん明みやう 【久しきやみはれてやう〜ふんみやうとあきらかになりたり人の運うんのひらくにたとふ】

③登のぼりてレ江緑えにりよく一水澄すいすめり一

【江のほとりへ至れば水みどりにすみわたりたりこれは人の上にて心か〜りなくすみたるを云】

④芝ししよ一書従しよたか二遠降えんか一

【芝書とは論旨りんしの類をいふなりかやうの御墨付を下されはとをき所までもきふ〜してしたかふと也】

⑤終得ついにえて二異人いしん一成なる 【たいこうばう張良てうりやうなどのごとき異人いじんを味かたに得て我おもふ事じやうじゆすへしと也】

①第七十四凶

②蛇虎正交じやこ羅まにまにまじりつらなる 【じやもとらも人をがいするものなりこれにまじはりつらなるはあやふきこともちろんなり】

③牛生うしじゆうず三二尾にびおほき多おほき一

【牛の字に尾を二ツ付れば失しつの字と成損失せんのかたち也また二ツ多きは朱の字也朱舌とて災なんをつかさどる也】

④交まじりてレ歳方成としをまにますレ慶よろこび一

【としをまじへとは一年はじめによるこびあるべし】

⑤上下しやうかす不あたはレ能くむするレ和こと一

【家内上下わがうせざる也これ第一句にいふ蛇と虎とまじはりあるかたちなり】

※第二句の解説は、第三句の解説欄にはみ出る。

①第七十五凶

②孤舟欲こしうほつすレ過すまんレ岸きし一 【ひとつの舟にのりてむかひのきしにわたらんとする也これは人のうへ世わたりのことをたとふ】

③浪なみ一急渡きふじてと一人空じんむなし一

【彼きしへわたらんとするになみ〜してわたりがたくむなしく日をくらす也是世渡のかたきを云】

④女によ一人立にんたう三流りう一水すた一

【女人は心さだまらぬにかたとる流水はかんなんのかたちなり此心は前にはなん所有ていか〜はせんとあんじまよふ也此句を易にあつれば沢水困の卦なり】

⑤望のぞんでレ月意情つきをいじやうじやう濃ちか一

【此句は物事あまりに思ふやうにならぬゆへにうちなけきたるさま也月を見ればそろものかなしき情あるなり】

(No. 8 裏)

①第七十六吉

②富貴天之祐 【富貴は天よりさづけ給ふ所なれを我智恵さいかく斗りにては得られぬなり】

③何須レ苦レ用レ心 【いかほともかきくるしんで心をつくすとも益なし天めいのなす所なればなり】

④前一程應レ顯レ跡 【行すへの吉凶はみなまへになし置たる善悪の跡のあらはるゝにて自業自得なり】

⑤久一用得ニ高臨一 【久しく心を用ゐて善をつまば其徳にて高位にのほることを得へしとなり】

①第七十七凶

②累滞未レ能レ穌 【るいたいとは物こと久しくとゞこほりてある事也
そすることあたはずとはいまた埒あかぬ也】

③求レ名莫ニ遠一圖一 【とをくはかることなかれといふはずへの末にてあんじはかることなかれとなり】

④登レ舟波浪急 【舟にのらんとすればなみかぜあらしこれは世わたり
にさはりあるにたとへていふ也】

⑤咫一尺隔ニ天衢一 【しせきとは寸尺といふに同じてんくとは天地のこと
也これはわづかに尺寸のまちかひかすゑには天地をへたつるほとちが
ひに成へしと也】

①第百十八大吉

②(第一句と解説削除)

③何愁理去忠 【あるひ】 「ん言などして氣にさかひかへつて不忠とよばるともうれへまじと也】

④松栢蒼々翠 【松栢などの霜にいたますにいつもみとりなることく心
のみさほ正しくもつへしとなり】

⑤前山禄馬重 【いつたんは君の氣にたかふこと有とも終にまことの忠義
あらはれさかゆへしとなり】

※第一句分が完全に削られて削除されているほか、全体的に摩滅が激しい。

(No. 9 表)

①第七十九吉

②残月未還レ光 【さんげつは有明月のこと也有明月は光のうすらぐ物
成になを光をかへさずして明らか也】

③樽前非ニ語一傷一 【酒にえひてはことばも乱れもつゝものなれとも
なを言葉も正しくみだれざるをいふなり此と前の句共に人事にいはずお
とろへ乱るへき事もおとろへずみだれすといふ事也】

④戸中有二人一厄一 【こちうじんやく有といふはわが家内にわざはひのお
こるべき事ありこれをつゝしみふせげよとなり】

⑤折レ福保ニ青一陽一 【せいやくとは春のこと也此心ははるの陽氣ひら
けて万物生ずることくなるへしとなり】

※第二句の解説は、第三句の解説欄にはみ出る。

①第八十大吉

②深一山多養レ道 【みやまの中にありて道徳をしゆするをいふこれは

人々内心にまことをつくすへきたとへなり】

③忠正帝王宣【道德忠誠の功あらはれ天子の宣旨下りあつくもちぬらるへきなり】

④鳳逐レ鸞飛去【らんほうとともに吉するの鳥なれば彼出世のずるさうあらはるるなり】

⑤昇レ高過二九一【九天の高きにのほるものはらんとほうと也彼忠せいの人もちるられ高位のほるをたとへていふ】

①第八十一小吉

②道一合 須ニ成合一【仁義五常の道に合ひたらは万望のことじやうじゆすべしとなり】

③先憂事 更多【さきにうれひことありしも是より吉事にかわるへしと也但し是は道にかなふ人のこと也】

④所レ求 財寶盛【ざいほうもさかんにして思ふまゝになるべし是も無理非道ならば叶ひがたし】

⑤更一變 得二中和一【ふたゝびへんじて一家一門も和順にて中和の徳に叶へし皆道に叶ふか故なり】

(No. 49 裏)

①第八十二凶

②火発 應レ連レ天【火はつして天につら成とは炎のかたちなり又火はしんとていかりはらだつことにぞくする也いかさま大なるわざはひにあふへしと也】

③新愁惹二舊一【あたらしきうれひにふるきあやまちとまじりて身もよ

もあらぬさまなり】

④欲レ求 二千里外一【とをき国へゆきてこのさいなんをのかれさけんとおもへともといふことなり】

⑤要レ渡 更無レ船【わたりをもとむるにふねなくしやうもやうもなきていなり】

①第八十三凶

②舉レ歩出 二雲端一【あしをあげてくものはしに出るといふ事也これおよはぬことのとへをいふなり】

③高枝未 可レ攀【たかきえたへよぢのほらんとすれどもほられすこれもおなじたとへなり】

④昇レ頭 看 二皎月一【かうべをあげてあきらか成月をみればといふ心はおよばぬ望に心をつくしるる也月を望事】

⑤猶在 二黒雲 間一【我望む所の月はなをくろくものあひたに有これみなそのみの叶わぬことをたとへていふなり】

①第八十四凶

②否極方無 泰【ひこくとはよからぬ事のきはまりといふこと也ゆゑに何事しても中々やすきことはなしと也】

③花開 値 二晩秋一【ばんしうはくれのあきとよむ九月のこと也此ころに花のひらけたりともやがて霜雪にあふてかれしほみ何の悪きもなき事なり】

④人情不 二調備一【にんじやうずとは中々人のおもひつきもあるましと也とかく人氣の和合せぬをいふ】

⑤財寶鬼来偷【きといふは俗にいふひんほう神のたくひ也金銀さいほうはこの鬼か来つてぬすみさると也】

(No. 5 表)

①第八十五大吉

②望用何愁晩【のそみ事がおそぎとて何もあんしうれふるまじきとなり】

③求名漸得寧【やうやくとはしだい〜にと云こと也なをあげんとおもへは是よりしだい〜にやすき事を得べし】

④雲梯終有望【うんでいとほくものかけはしなりこれは出世の手が〜りをいふつひによき手が〜りも出来るべし】

⑤歸路入蓬瀛【ほうえいとほ仙人の住たからの山なりかへりみちに此山に入て仙人となりつねにたのしむべしと也】

①第八十六大吉

②花發應ニ陽臺【やうたいとは花見のためにつくりたるうてな也花の見事に咲るとやうたいのけつかうなると相応するなり】

③車行進ニ寶財【かず〜のたからものを車につみてす〜み行けしき也】

④執レ文朝ニ帝殿【文をとつてとは文武の才智によつてみかどへ召出さる也てらすとは出勤する事なり】

⑤走レ馬听レ聲雷【らいはいかづち也此心は馬をはしらしめて日々出勤するのせいのさかんなる事いかづちのと〜ろくがことく人みなおそれふくする也】

※第一句の解説は、第二句の解説欄にはみ出る。

①第八十七大吉

②鑿レ石方逢レ玉【「石に□□□れて有ものなればそれ□□得んために石をほりうがつ也人の「万望事あるに心をうがつ」「功を

つまはじやうじゆすべきなり】

③淘レ沙始見レ金【此句のこ〜ろも前におなじ玉を金といひかへたるばかりにて同じこ〜ろなり】

④青霄終有レ路【せいせうは青雲といふに同じ青雲とは官にす〜むこと也又上つ方にまじは□を青雲のまじはりともいふ也□□ありとは手すじを得る】

⑤只一恐不ニ堅心【これほどの人なれとも心ざしかたからすあやまちを引出さん□しれがたしおそれつ〜しむべしと也】

※第一句の解説は、第二句の解説欄にはみ出る。

(No. 5 裏)

①第八十八凶

②作レ事不和同【わどうせずとは和合せずといふに同じ何ことをしても人が思ひあはずとなり】

③臨レ危更主レ凶【さらにといふはそのうへにといふこ〜ろ也わざはひのかさなりて来るやうすなり】

④佳人生ニ苦根【かじんといふは我たよりとおもふ人をいふ也此人にくるしみの根本しやうずると也】

⑤閑慮兩三重【物事おもふやうにならぬ故いくたびもくりかへし〜】

もの思ひをするていをいふなり【

①第八十九大吉

②一―片無レ瑕玉【少しも疵なき玉なりされどもいまだみがゞざるあら玉なるべしこれは智ある人のたとへなり】

③從レ今好二琢一磨一【たくまといふは玉をみがくこと也いかなる玉もみがぬさきは石に同これをみがきてひかりをあらはす也人のうへならば学文をして智をみかく也】

④得レ遇二高人識一【此玉もしる人なければ石瓦も同前也高人とはよくめきゝする人也此人にあふて玉の徳もあらはるゝをいふなり人のうへにも御上より御見出しに預ること也】

⑤方逢二喜氣一多【玉のひかりのあらはるゝごとく人もりつしん出世してよろこびにあふ事多しとなり】

①第九十大吉

②一―信向レ天飛【たゞ一へんに信力あらば其まことの心天につうじとぶがごとくなるべしとなり】

③秦―川舟自 帰【しんせん舟にはあやにしきをつむといふ故事ありしからば天のさいはひを得て此舟に宝をつみてかへる心あり】

④前―途成二好事一【行すへなすほどのことみなく吉事なるべしと也好事とはよきこととよむなり】

⑤應レ得二貴人推一【貴人高位の人にめをかけられ仕合とふまゝなるべし推とは力をそえらるゝことなり】

(No. 1 表)

①第九十一吉

②改二變前途一去【前かどのあしき事もあらたまりかはりてこれより次第によくなるべし】

③月桂又逢レ圓【月のかけたるもぜんぐ満月となるごとくひとまたんぐと満足すべしとなり】

④雲中 乘レ禄至【天道より知行財宝をあたまひて福祿ゆたか成べしという事也】

⑤凡―事可レ宜レ先【はんじとはすべての事とよむ何事をなすにも人にさきだつてするかよろしといふ事也】

①第九十二吉

②自レ幼 常為レ旅【此句のころは人の身のうへ何事もさだまらずおちつかぬ事をいふなり】

③逢レ春 駿―馬驕【馬は陽気の物にて春になればおこりいさむもの也これは人も仕合よくいさむ事にたふ】

④前―程宜レ進レ歩【行すへよきほどにいさんであゆみをすゝむべしといふ事なり】

⑤得二箭降二青一霄一【箭はまつすぐにしてあたるもの也あたるときはすなはち得るなりこれ天より吉事を得るの手すじをあたへ給ふことをいふ也】

①第九十三吉

②有レ魚臨二早一地一【かんちとは水なくかはきたる土地也此かんちに魚

を居は忽ち死すべし人の身にとりては至ごくこんきうの躰なり】

③ 踊躍入二波一濤一【かんちの魚おどつて波に入がごとく人も今迄こ

んきう難義せしにこれを転じて仕合よくならんとなり】

④ 隔中須有レ望【万事ねかひのぞむことある中に少しへだてさ

わりあるべしといふことなり】

⑤ 先且慮二塵一勞一【まづしばらく見合すべし其うちにはざわりも

とけて心やすくなるべしとなり】

※第一句の解説は、第二句の解説欄にはみ出る。

(No. 51 裏)

① 第九十四半吉

② 事忌樽前語【酒のうへにてことを仕出しあやまつ事あるべしつゝ

しみてよし又樽尊同音なれば尊前とも通すべし此時には貴人の前をつゝ

しむべし】

③ 人防二小輩一交一【せうはいのまじはりとは我より下さまとのまじ

はり也これをもつゝしまざればわざはひおこるべし】

④ 幸乞二陰一公祐一【いんこうとは我主人のおくがた或はおばあね又

は出家などのたすけを得てぶなんなるべしと也】

⑤ 方免レ事敲レ交【すゑぐは物のやかましきことものがれて心

やすくなるべしと也交をたゝかんとはまじはりをよくするをいふなり】

① 第九十五吉

② 志氣勤修レ業【こゝろざしにゆだんなくして我家業をつとめしゆす

るなり】

③ 禄位未レ造逢【されどもいまた其功あらはれざる故禄をも得ずく

らぬにもすゝまざるなり】

④ 若聞二金一雞語【きんけいのごとはあかつきにはとりの声なりこれ

はしせつの到来をまつて見よといふことなり】

⑤ 乘レ船得二便風一【しせつ至らはじゆんふうに舟を出すがごとく心のまゝに仕合あるべしとなり】

① 第九十六大吉

② 雞逐レ鳳同飛【此心はいやしき人も貴人又は賢人の所作ふるま

ひをまねびならふ事をたとへたり】

③ 高林整二羽一儀【たかきはやしにとまり羽つくるひするていはほう

わうにもおとらぬやうすなりこれ前にいふいやしき人もけん人のごとく

になるを云】

④ 棹レ舟須レ濟レ岸【ふねにさほさしてきしにわたるとは心やす

らかに世をわたることにたとへたり】

⑤ 寶一貨満レ船帰【ほうくわみちふねにから物の事なりふねにみつるほどた

からを得てかへるべしといふこと也】

(No. 52 表)

① 第九十七凶

② 霧罍二重樓屋一【きりはもうろうとくらぐ二かい作の家をおほふと

いふこと也是は世間のふさがりたるにも心のくもるにも云】

③ 佳人水上行【或大切におもふ人が水のうへを行ごとくするほどの事

あやふくこゝろもとなし】

④白^{はく}雲^{うん}歸^{かへり}去^{さる}路^ぢ【なにこともむなしくはかなきていなり雲のゆきゝは

さためなきものなればはかなきたとへ也】

⑤不^す見^み三^{さん}月^{げつ}波^は澄^{すめ}【きりふかくして月の見へねばせめて水にうつるか

げなりとも見んとおもへば波あらゝそれさへ見へぬ也】

①第九十八凶

②欲^{ほつじ}理^り二^に新^{しん}絲^し亂^{らん}【いとのみだれをおさめんとするはしんくな

るものなりこれはおもひのむすほれしをたとふ】

③閑^{かん}愁^{しゅう}足^{たく}二^に是^ぜ非^ひ【しつかにゐてうれひにしづみぜひをわきまへかねたる

ていなり】

④只^{ただ}困^{くわん}二^に羅^ら網^{まう}裡^り【らまうといふはあみのこと也あみにかゝりたる魚

のごとくくるしみあるとなり】

⑤相^{あひ}見^{みん}幾^{いく}人^{にん}悲^ひ【いくばくかたにんのかなしみを見て我かなしみに

引くらべ物おもひたへましきなり】

①第九十九大吉

②紅^{こう}日^{じつ}當^{あた}レ門^{もん}照^{しょう}【こうじつとはよくてりかゝやく日なり門にあつ

てとは天道よりめぐみをつくる事也】

③暗^{あん}月^{げつ}再^{さい}重^{じゅう}圓^{えん}【あんげつはくらき月ふたゝびてりわたりてちよう

ゑんとまどかになるなり】

④遇^{あひ}レ珍^{ちん}須^すレ得^{とく}レ寶^{たから}【ちんはめぐらしとよむこれは何ことにもあれ

めぐらしきことにあひてたからを得べしと也】

⑤頗^{すこ}有^あレ称^{しょう}必^{ひつ}遣^{せん}【すこふるとはよほとゝいふこと也しようありと

は名をあぐるなりこれは大人に引立られよほど名をあぐへしといふこと

也となり】

(No. 2 裏)
5 裏)

①第七十八大吉

②但^た存^{ぞん}二^に正^{せい}公^{こう}道^{どう}【おほやけのたゞしきみちをまもりそんじてといふ

事也】

③何^{なに}愁^{しゅう}理^り去^さレ忠^{ちゅう}【りをたてかんけんなどしてきにさかひかへつてふ

ちうとよばるともうれへまし】

④松^{せう}栢^{はく}蒼^{そう}々^々翠^{すい}【まつかしはなどのいろもかはらすいつもみとりなる

ことく心をたゞしくもつへしと也】

⑤前^{ぜん}山^{さん}禄^{ろく}馬^ま重^{じゅう}【きみのきにたかふともついにまことのちうきあらはれ

さかゆべしと也】

①第一百凶

②禄^{ろく}走^{そう}二^に白^{はく}雲^{うん}間^{かん}【ちきやうざいほうもむなしくなり行ていなり白

うんのあいだとはつかまへ所のなきたとへなり】

③携^{たづ}レ琴^せ過^か二^に遠^{えん}山^{さん}【此心は世の中おもはしからぬ故いんとんする

こゝろ也又琴をたつさふは知音を求るなるべし】

④不^すレ遇^ぐ二^に神^{しん}仙^{せん}面^{めん}【たとひいんじやとなりても神仙又知音にもあは

ねばこれもまたむたことゝなる也】

⑤空^{むな}惹^{しく}レ意^い爛^{らん}爛^{らん}【するほどの事よからぬゆへに心もみだれまよひ

てらんはんとまだらのごとくなりし也】

【墨書】

No. 53 順氣湯功能書／順氣湯包紙

(表)

家傳	秘方	一切逆上	頭痛	癩症
順氣湯	婦人諸病	諸鬱	產前後	
脚氣	吐血	泄瀉	下血	
虛勞	暑	衄血	眩暈	
中暑	積聚	腹痛	霍亂	
其外遠路草臥	二日酔に用	船及酔		

右之案此袋のまゝ三四度「」にて振出し
御用被成其跡は御養御用「」

此順氣湯は我先祖崎口造曆し頃南京の
良醫より受請□□の妙方より我家数代親族
朋友の病者に試て其功神のことし□なしく
もて「」良方を埋むるに似たり故に世上に普く
廣めん事を欲するものなり

江戸湯島天神男坂下

調所

松金屋文治郎

(裏)

家傳

順氣湯

秘方

No. 54 受領証

記

右正二受納仕候也

湯島天神男坂下

月日 柳井堂

No. 55 御祈禱卷数

御祈禱卷数

(梵字) 奉修大聖歡喜天 浴油供一七箇日廿有一座攸

奉念誦

大日如来真言	二千百遍
佛眼部母真言	二千百遍
一字金輪真言	二千百遍
十一面尊真言	二千百遍
軍荼利明王咒	二千百遍
歡喜天大身咒	二千百遍
同心咒	二萬千遍
同心中心咒	二千百遍
大自在天大咒	二千百遍
天悦咒	二千百遍
悦典咒	二千百遍
肝心咒	二千百遍
謂和咒	二千百遍
吉祥咒	二千百遍
佛慈護咒	二千百遍

有功徳咒 二千百遍
奉法施

普門品 三十三卷
大隨求 三十三卷
金剛經 三十三卷

右一七箇日抽丹誠旨趣者願主

心願成就家運繁榮福壽增益諸災消除
如意満足祈攸蓋如件

年月日

大阿闍梨沙門 敬百

No. 56 大浴油供祈禱修行案内／題箋「光明供」字体二種

(表)

謹啓貴家益々御清祥之段奉欣賀候

陳者例年の通り本月八特二信者講中諸侯の爲め

大浴油供御祈禱修行共ニ来る十六日八午前十時より

法話致次ニ大般若經転仕候間当日八萬障御

操合せ御有志の御方々御同伴にて御参拝相成

度此段右御案内申上候也

月日 本郷湯島天神町

心城院

(裏)

光明供

光明供

御供米

湯薦

心城院

No. 58 年賀状

恭賀新年

併せて高堂の萬福を祈り

尚倍舊の御厚情を希上候

一月元旦 本郷湯島天神町

心城院

No. 59 無常(和歌)

無常

人の身は露よりもろき物そかし

きへてかえる子は仏なり

味法

No. 57 御供米

歡喜天